



【高松っ子いきいきプラン改訂版】

発行日 令和2年3月

連絡先 高松市番町一丁目8番15号

高松市健康福祉局 こども園運営課 電話 087-839-2358

高松市教育委員会 学校教育課 電話 087-839-2616

高松市末広町5番地

高松市教育委員会 高松市総合教育センター 電話 087-811-2161

高松っ子いきいきプラン

改訂版



令和2年3月

高松市・高松市教育委員会

・ ・ ・ 目 次 ・ ・ ・

はじめに	1
I 高松っ子いきいきプラン改訂版の基本的な考え方	
基本理念	2
1 高松っ子に育みたいこと	2
2 各視点の内容	4
3 「資質・能力の三つの柱」及び 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について	8
4 プラン重点項目及び体系図、位置付けと活用について	13
II 具体的方策	
1 子どもにとって望ましい教育・保育内容の充実	16
(1) 子どもの権利を守る	17
☐子どもの権利を守る	19
(2) 遊び（学び）の重要性	20
☐遊びの時間を確保する	22
☐遊びの空間を確保する	23
☐子どもが生活する中で	24
(3) 特別支援教育の推進	25
(4) 就学前教育と小学校教育の円滑な接続	30
☐子どもの学びを小学校につなぐ（就学前の先生の振り返り）	33
☐子どもの学びを小学校につなぐ（小学校の先生の振り返り）	34
2 家庭における子育ての充実と豊かな親子関係づくりへの支援	36
(1) 保護者と子どもの育ちを喜び合う	36
(2) 未就園児親子への支援	36
☐保護者と子どもの育ちを喜び合う	37
3 地域社会や関係機関との連携の推進	39
(1) 地域の力を取り入れた教育・保育の充実	39
☐地域に出向く（地域の人・もの・自然との関わり）	40
(2) 地域で支える子育て支援の推進	41
III いきいきカリキュラム	42
IV 資料	
・ 幼保連携型認定こども園としての配慮	47
・ 高松市独自の取組	56
・ いきいきカリキュラム視点「た」の具体例	57
・ いきいきカリキュラム視点「つ」の具体例	58
おわりに	59

※ ☐は、リフレクションシートのページを示しています。

はじめに

現在、子どもを取り巻く状況は多様化し、子どもたちが生きていく生活環境も刻々と変化しています。このような予測不可能な時代の状況に柔軟に対応できるよう「生きる力」を育むことが大切です。非認知能力の育ちが大人になってからの生活に大きな影響を与えるという研究結果もあり、乳幼児期から遊びや生活を通して子どもたちがこれらの資質・能力を身に付けることが期待されています。

国においては、平成30年3月に、教育・保育の基礎となる「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「幼稚園教育要領」が改訂され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共通に示し、さらに令和2年度より「小学校学習指導要領」も改訂・施行され、「10の姿」を踏まえた指導を工夫し、乳幼児期の教育を通して育まれた資質・能力をさらに伸ばしていく教育活動を実施するなど、就学前教育と小学校教育の円滑な接続が重要視されています。

こうした国の動きの中、本市では平成22年度に就学前の子どもが幼稚園・保育所・幼保一体化施設のどこに在籍していても、等しく質の高い教育・保育を提供し、小学校につなぐ「高松っ子いきいきプラン」を策定し、平成24年度には「いきいきプラン活用方法」、平成27年度には「いきいきプラン実践編」を作成しました。

そして、幼保一体化施設が平成27年度より幼保連携型認定こども園（以下「こども園」という）となったことも踏まえ、より一層の教育・保育の充実をめざして、学識経験者をはじめ、保育所・こども園・幼稚園・小学校の教職員をメンバーとする検討協議会を実施し、この度「高松っ子いきいきプラン」の改訂を行いました。

本市の子どもたちの健やかな成長を願い、実際に園所内・校内研修等でしっかりと活用されることを切に希望します。

※ 保育所・こども園・幼稚園・小学校で行う保育や授業を「教育・保育」という言葉で表現しています。また、職員については「教職員」とし、就学前教育の職員に限る場合は「保育者」としています。

令和2年3月

高松市・高松市教育委員会

I 高松っ子いきいきプラン

改訂版の基本的な考え方



I 高松っ子いきいきプラン改訂版の基本的な考え方

本プランは、人間形成の基礎を育む就学前教育とその後の教育を積み重ねていく小学校教育の充実をめざし、本市の子どもたちが質の高い教育・保育を受けられるよう、各保育所・こども園・幼稚園及び小学校一年生で取り組んでいただきたい方向性を示しています。そこで、豊かな心や意欲、態度など「生きる力」の基礎を培うための理念と方策を設定しました。

《 基本理念 》

〈夢中になって遊び 豊かな心と体を育む〉

～たのしさいっぱい かがやく瞳で まあるい心と つよい体の 高松っ子～

子どもが、安定した情緒のもとで十分に自己発揮できるような環境を整え、豊かな生活体験を積み重ねながら、規範意識の芽生えを培い「自ら考え主体的に行動できる豊かな心と健やかな体をもった子ども」を育てることをめざし基本理念を「夢中になって遊び 豊かな心と体を育む」こととしました。

1 高松っ子に育みたいこと

子どもが「夢中になって遊ぶ」ことを今回の改訂では、さらに重視したいと考えます。



子どもにとっての「遊び」

人は生まれながらにして、周囲の環境に対して自分から能動的に働きかけようとする力を持っています。子どもの興味・関心に基づき、子ども自身が能動的・自発的に環境に関わることで、すなわち「遊び」が主体的な学びにつながると考えます。

活動の後に「先生、もう遊んでもええん」と聞かれることはありませんか。遊びは「遊ばされている」状態ではなく、子どもが「遊び」を楽しみ、我を忘れてその中に没頭し、浸り込む姿だと考えます。そのような子ども一人一人が「遊びまくり遊びつくす」ことを少し手助けしたり、状況を準備したりして応援していきたいものです。

豊かな「遊び」の中にこそ、豊かな「学び」が生み出されていることでしょう。

「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明らかにしていくことが大切であり、教職員が適切に子どもの姿を読み取り対応していくことが望まれます。

そこで、子どもたちが存分に遊ぶ中で、学びが深まることを大切にし、本市の子どもたちが

「た」太陽の下 「か」限りなく 遊び「ま」くり 遊び「つ」くす

ことを願っています。また、それに向けて教職員が真剣に取り組むことが望まれます。

子どもたちが遊ぶ中に「どのような学びがあるのか」、また「どのような学びにつながるのか」ということを具体的な子どもの姿から観ていくことが求められています。

その中で評価したことが、学校や施設の目標やめざす子ども像とどうつながるのか、また、その時期やその日のねらいとどう関連しているか、そして、「高松っ子いきいきプランの視点」で示している、本市が子どもたちに願う姿とのつながり、ということも考察していただきたいところです。

子どもを取り巻く状況の変化を踏まえて今後、子どもたちに求められることを想定し、本市の子どもたちに願う姿や育ってほしいことを、教育・保育を進めていくための視点として、以下のように設定しました。

＜高松っ子いきいきプランの視点＞

※各施設・学校の
目標や学級経営、
指導計画等の作成
時にも合わせて
見てね!!



たのしく元気に遊ぶ(学ぶ)子ども

＜生活に必要な習慣＞

- ・基本的な生活習慣
- ・生活リズム
- ・食育



かがやく瞳で遊ぶ(学ぶ)子ども

＜身近な環境との関わり＞

- ・好奇心
- ・意欲
- ・主体性
- ・探究心
- ・思考力
- ・感性
- ・表現力



まあるい心で遊ぶ(学ぶ)子ども

＜人との関わり＞

- ・心の安定
- ・自尊感情、自己肯定感
- ・思いやり
- ・多様性を受け入れる心
- ・自己発揮、自己抑制
- ・コミュニケーション能力
- ・協同性
- ・道徳性、規範意識



つよい心と体で遊ぶ(学ぶ)子ども

＜しなやかで健康な体づくり＞

- ・体力
- ・身体調整力
- ・挑戦意欲
- ・粘り強さ
- ・危険回避能力

2 各視点の内容

乳幼児期には、幼児理解に基づいた保育者による意図的・計画的な環境のもとで、保育者や友達と関わり、様々な体験をすることを通して「学びの芽生え」が広がったり深まったり豊かになります。このことは、小学校以降において、各教科での「自覚的な学び」の基礎となるでしょう。

様々な体験を通して乳幼児期から小学校1年生までにふさわしい教育・保育が展開されるよう子どもたちの毎日の生活や遊び(学習活動)の中で、教職員が子どもたちに何を願い、どのようなことを大切にし、配慮をしていくとよいかを明らかにしていくため、以下のように4つの視点(高松っ子に育みたいこと)に分けて表記しています。

たのしく元気に遊ぶ(学ぶ)子ども (生活に必要な習慣)



「遊びまくり遊びつくす」ための土台につながるっくり！

【高松っ子に育みたいこと】

○【高松っ子に育みたいこと】
□ 配慮したいこと

【小学校へのつながり】

基本的な生活習慣 (食事・排泄・睡眠)

生活リズム

- 食事・排泄・睡眠などの一人一人の生理的なリズムが尊重され、しっかり遊ぶことで、心地よさや充実感を味わい、安定した**生活リズム**がつけられるようになります。
- 一人一人の生活リズムを把握し、子どもの活動意欲を満たしながら休息との調和を考慮することが大切です。
- 保護者に健康な生活リズムの大切さを伝えながら、家庭と連携を図りましょう。

◎時間割を含めた生活の流れが分かり、次の行動を考えて準備するなど、見通しをもって行動するようになります。

基本的な生活習慣 (清潔・着脱・身の回りの整理等)

- 子どもは、保育者等からの援助や関わりを通して、清潔になる心地よさを感じ、身の回りを清潔にすることの意味や理由を体験的に理解していきます。そのような中で、生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育まれます。
- 友達の様子を見たり、一緒に行ったりして、生活に必要な様々な習慣や態度を身に付けていきます。
- 基本的な生活習慣**は、毎日繰り返し行うことによって習慣化します。心地よさや満足感がもてるように、受容的、応答的に関わりましょう。



食育



- 教職員等や友達と食べる楽しさを味わったり、食べ物への興味や関心をもたずすることで、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育ち、食べ物を大切にする姿につながります。
- 適切な食習慣が形成されるよう、一人一人の食べる量や援助の仕方に配慮し、子どもが食べることを楽しむことができるようにしましょう。
- 家庭や地域社会と連携しながら、食に関する体験の場を広げるなど、豊かな**食育**を推進していきましょう。

か

がやく瞳で遊ぶ(学ぶ)子ども (身近な環境との関わり)



「遊びまくり遊びつくす」
ために必要であり、より育
つものだっくり！

【高松っ子に
育みたいこと】

○【高松っ子に育みたいこと】について
□ 配慮したいこと

【小学校へのつながり】

好奇心

意欲

主体性

○生きる力の基礎が培われる乳幼児期には、生活や遊び
の中で、様々な「もの」や「こと」に出会い、“なん
だろう”という**好奇心**や関心、“やってみたい”とい
う**意欲**、“なぜ”“どうして”という疑問などをもち
ながら、身近な環境に**主体性**をもって関わるよう
になります。

□子どもが主体的に環境に関わり、いろいろな直接体
験をする楽しさを感じることでできる環境づくりを
しましょう。

◎主体的に遊び
込むことは、
感性や探求心、
思考力を培い
ます。

◎乳幼児期の遊
びによる総合
的学びの姿
(学びの芽生
え)は、小学
校就学後の自
覚的学びにつ
ながります。

探求心

思考力

○子どもは主体的に遊び込む中で、身近な環境に探索
活動を広げ、試行錯誤しながら体験を通して新しい
ことを知り、充実感や満足感を味わいます。自分か
ら**探求心**をもって、環境に働きかけていくことは、
思考力を培い、子どもの学びに向かう力につなが
ります。

□子どもがじっくり遊び込めるよう、時間と場所の
確保に努めましょう。

□遊び自体が、
目的であり、
小学校の準備
のための遊び
ではないこと
を忘れないよ
うにしましょ
う。

感性

表現力

○子どもは身近な自然や地域の文化、伝統などの、身
近な環境と十分に関わる中で心を動かし、その感動
を友達や保育者と共有したり、様々な方法で表現し
たりすることによって、喜びを感じ、**感性**や**表現力**
を培います。

□その子なりの感性や表現力を大切に受け止めましょ
う。
□地域に親しみを感じることが出来る活動を積極的に
取り入れましょう。





【高松っ子に
育みたいこと】

ま あるい心で遊ぶ（学ぶ）子ども （人との関わり）

- 【高松っ子に育みたいこと】について
- 配慮したいこと

「遊びまくり遊びつくす」ため
の根底に不可欠なものづくり！

心の安定

自尊感情 自己肯定感

○子どもは、保護者や周囲の人々に温かく見守られ、ありのままを受け止められているという安心感や信頼感を基盤として**心が安定**すると、自分の意思で行動し自分でやり遂げるようになります。このような経験を重ねながら、充実感を味わい**自尊感情・自己肯定感**が育まれます。そして、主体的に生活したり様々な遊びや活動に取り組んだりすることを通して、喜びや楽しさを感じながら友達という心地よさを味わうようになります。

□子どもに関わる大人が、子ども一人一人を丸ごと受け止めて信頼関係を築きましょう。

□子どもが自らやってみようとする姿や過程を認め励ますように援助をし、諦めずにやり遂げて自信がもてるようにしましょう。

思いやり 多様性を 受け入れる心

自己発揮 自己抑制

○いろいろな人と関わりながら、自分の思いを伝え合ったり試行錯誤したりして、一緒に活動する楽しさを味わうようになります。その一方で、思い通りにならないもどかしさや、いらだちなどの葛藤も経験します。友達の気持ちに気付き自分の気持ちを調整したり、**多様な考えを受け入れたり**して、**思いやり**をもち**自己発揮・自己抑制**する力が育ってきます。

□友達と楽しく活動する中で、様々な思いがあることや、集団生活のマナーやルールの必要性に気付き社会性が身に付くようにしましょう。

「遊びまくり遊びつくす」こと
により身に付く力だっけり！

コミュニケーション能力

協同性

道徳性 規範意識

○子ども同士で共通の**コミュニケーション**を図りながら目的を見出し、協力や工夫をし、協同する遊びの楽しさを十分に味わう中で**協同性**が育まれます。
○友達と活動する中で、集団生活のマナーやルールの必要性に気付き**道徳性**や**規範意識**が身に付くようになります。

□人と豊かに関わるためのあいさつや言葉遣いなど、やり取りをする場面を大切にしましょう。

□様々な遊びや生活の場面で、多様な人や友達と関わり協同的に活動する場を意図的に設けましょう。

【小学校へのつながり】人と関わる中で育つ力は、小学校以降も引き続き育みたい力と捉えています。

◎学級集団の中で、目的に向かい、自分の力を発揮しながら教職員や友達と協力して生活したり学び合ったりします。



【高松っ子に
育みたいこと】

つ よい心と体で遊ぶ（学ぶ）子ども （しなやかで健康な体づくり）

- 【高松っ子に育みたいこと】について
- 配慮したいこと

「遊びまくり遊び
つくす」ことそのもの
のつくり！

【小学校へのつながり】

体力 身体調整力

- 子どもは活動欲求が高く、興味をもった活動に自分から関わっていきこうとしますが、その中で、諸感覚や全身を十分に使うための活動を繰り返して行うことを通して、様々な運動や活動に自分なりに目標をもって取り組んでいくようになります。
- 自ら体を動かそうとする意欲をもち、体を十分に動かすことの気持ちよさを味わったり、いろいろな場面に応じて**体の動きを調整**したりするようになります。
- 子どもの興味の広がりによって展開する様々な活動を通じて、十分に全身を動かし、活動意欲を満足させる体験を積み重ねることできるよう、環境を整えていきましょう。
- 子どもの興味や関心が自然な形で戸外に向けられるようにし、子どもが進んで戸外での遊びを楽しむことができるようにしましょう。

◎運動遊びにおいて、自ら進んで運動に親しんだり、休み時間等に他の子どもと一緒に楽しく過ごしたりする姿につながります。

挑戦意欲

粘り強さ

「遊びまくり遊びつくす」中で培われるものづくり！

- “これがしたい”と遊び等に興味をもち、根気よく取り組んだことで達成感を味わい、最後まで**粘り強く挑戦しようとする力**が身に付きます。その結果、何事にも前向きで自信をもって取り組むようになり、自己肯定感も育っていきます。
- 少し難しいことに挑戦しようとする過程を認め、失敗しても「大丈夫」と温かく受容したり、励ましたりして、最後まで諦めずにやり遂げたという自信がもてるようにしましょう。

◎様々な活動に意欲的に取り組む力や、様々な場面において、伸び伸びと行動する力を育むことにつながります。

危険回避能力

- 遊びや生活を通して安全能力が育まれますが、体を動かす遊びの場面では挑戦的な姿が見られる一方で、危険を伴う場面も見られます。そのような場面での経験を通して**危険を予測して安全に気を配りながら行動**ができるようになっていきます。

- 遊びや生活の場において、生活の中の過ごし方のルールや方法の意味を伝えながら、自分から安全な行動がとれるようにしましょう。

◎安全に気を付けて登下校しようとする等、安全に関する情報を正しく判断し、行動する力を育むことにつながります。

- 道路等を安全に通行する経験や火災や自然災害の避難訓練を通して、発達過程に応じた取るべき行動や態度を身に付けていくようになります。

- 安全指導や災害時の訓練などを通して、危険な場所や災害時などの状況に応じた、適切な行動がとれるようにしましょう。



3 「資質・能力の三つの柱」及び

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について

【資質・能力の三つの柱について】

高松っ子に育ってほしいこと（力）や願いとして、乳幼児期から小学校一年生まで重視したい内容を前頁までで示したところです。

「資質・能力の三つの柱」については、0・1・2歳児の各施設での保育や家庭保育の中で培われていく「生命の保持と情緒の安定」を基盤として、3歳児以降の幼児教育の中で「遊びを通しての総合的な指導（学びの芽生え）」から「小学校以降の教科学習を通して（自覚的な学び）」へとつながっていくことが望ましいと国でも示されています。

その「資質・能力の三つの柱」は、実際の教育活動の中では複雑に絡み合いながら培われていくものであり、「高松っ子に育みたいこと」についても同様と考えられます。しかし、活動の中で個々の子どもたちが、そのねらいを達成しているかどうかを評価していく際には、高松っ子いきいきプランの視点や三つの柱での観点の分析をしていくことも有効です。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、5歳児後半の姿を見ていく教職員の共通の視点です。小学校との接続を踏まえて、高松っ子いきいきプランの視点と連動して考えていくことができるので、園所内研修・校内研修や保こ幼小連携の際などに活用していくことが望まれます。



* P. 9 『資質・能力の三つの柱』と『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 参照

はやく、チョウチョウ
が止まらないかな？

うまくいくと
いいね

網をもってチョウチョウを捕まえようとしたが、なかなか難しい。

手で花を作って、チョウチョウがそこに止まるのを待つ4歳児の子どもたち。

「資質・能力の三つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

小学校以降の教育における資質・能力の三つの柱

知識・技能

何を理解しているか、何ができるか

学びに向かう力・人間性等

どのように社会・世界と関わりよりよい人生を生きるか

思考力・判断力・表現力等

理解していること・できるようになったことをどう使うか

<各教科>国語・算数・**生活**・音楽・図画工作・体育 <道徳科><外国語活動><特別活動>

小学校では学習(自覚的な学び)

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

言葉による伝え合い

社会生活との関わり

豊かな感性と表現

思考力の芽生え

健康な心と体

保こ幼・小連携の時に活用してね！

※10の姿は到達点や目標ではない。

高松つ子に育みたいこと(願う姿)

たのしく元気に遊ぶ(学ぶ)子ども

かがやく瞳で遊ぶ(学ぶ)子ども

まあいい心で遊ぶ(学ぶ)子ども

つよい心と体で遊ぶ(学ぶ)子ども

知識及び技能の基礎

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得、
身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性の発見
- ・ 様々な気付き、発見の喜び
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得等
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解 など
遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、
何を感じたり、何に気付いたり、何が
分かったり、何ができるように
なったりするのか。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 自分なりの表現・表現する喜びなど
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い など
遊びや生活の中で、気付いたことやできるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。

就学前教育における
資質・能力の三つの柱

幼児期は遊びを通しての
総合的な指導
(学びの芽生え)

学びに向かう力・人間性等

- ・ 好奇心、探求心
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然現象や社会現象への関心等
- ・ 思いやり
- ・ 自信
- ・ 安定した情緒
- ・ 相手の気持ちの受容
- ・ 話し合い、目的の共有、協力
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い など

心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営もうとするのか。

活動内容(経験したこと)がどこにつながっているか、どのような学びがあったのか、確認しましょう！

※資質・能力の三つの柱は、就学前から小学校、中学校、高等学校へとつながっている。

1歳児～5歳児(5領域)

健康・人間関係・環境・言葉・表現

0歳児(三つの視点)

健やかに伸び伸びと育つ・身近なものとの関わり感性が育つ・身近な人と気持ちが通じ合う

【実践事例】資質・能力の三つの柱

～風が存在に気付く～

4歳児6月

いきいきプランの視点・・・**か**がやく瞳で遊ぶ **ま**あるい心で遊ぶ

自分たちで海（ビニール）を広げ、魚釣り遊びをしていた。しかし、昨日のようにはいかず、釣れない。

体をひねったり、横からのぞいたりして、何とか釣ろうとするが、うまくいかない。

しばらくして、りくが「糸がゆれるからできん」と言う。保育者は「どうして揺れるのかなあ」と、投げ掛けたところ、りくは「風や」と答えた。保育者がさらに「どこから吹いてきている？」と尋ねると、ゆうすけが辺りを見回し「あそこ」と、窓を指さす。二人は、目を閉じて手を広げ、風を感じているようなしぐさを見せた。周囲にいた子どもたちも手を広げ、保育室をゆっくり歩きまわった。

窓、扇風機からの風を感じた子どもたちは「ここはいかん」と、遊び場を探し始めた。しばらくして、保育者が「どこにするの？」と、声を掛けると、子どもたちは、また、風を確認するために保育室を歩き回った。りくが「ここは、風がこんよ」と、みんなに知らせると、その後、みんなで釣り場を動かし新しい場を作る姿が見られた。

そして、すぐに魚釣りが再開し、釣れると「やったー」と、声をあげていた。



子どもたちは何を楽しんでいたのかなあ？



ex) 魚釣り遊び ・「貝とかも置く？」イメージの広がり共有

- ・「釣ったよ」「なかなか釣れない」達成感 ・友達がしていることを見て自分なりに考える
- ・一緒に作っていく楽しさ ・そこでの気付きから工夫・・・

『遊びの中に見える学び』をどう読み取っていくかが大切になってきますね！



- ・風を感じる経験（風あげやテラスで風車等）

これまでのどのような経験がつながっているのかな？

- ・水族館や海、図鑑などから海の中の様々な生き物に気付く等…かな？



私（担任）は、風で揺れていることに子どもたち自身で気付いてほしかった。これまでの経験から、きっと気付くであろうという予測もあった。

では、遊びの場所を変えたことについて考えてみましょう！



では、写真の子どもの姿を「資質・能力の三つの柱」から、どう解釈していきますか？
園で話し合ってみましょう！

知識及び技能の基礎

- ・釣り竿の扱い方（用具の使い方）
- ・釣り針に引っ掛ける（空間認識・身体感覚）
- ・新たな場所（発見の喜び）
- ・風があると釣れない（様々な気付き）



思考力・判断力・表現力の基礎

- ・「うまくいかない、何とかしよう」（試行錯誤）
- ・「どうして揺れるのかなあ？」「風や」（予測）
- ・「ここはいかん」「どこにする？」（言葉によるやりとり）
- ・遊び場を変える「ここがいいよ」（判断力・工夫）

なかなか釣れない

どこにする？

ここがいいんじゃない？

これなら、ねらえるわ

学びに向かう力・人間性等

- ・何とか釣ろうとするが釣れない（葛藤・根気）
- ・風を感じる、「ここはどうか？」（好奇心・探求心）
- ・みんなで釣り場を動かす（目的の共有・協力）
- ・相手の考えを受け入れる（受容）

「10の姿」の視点で遊ぶ姿を見る

遊びの中の学びと環境・事例1

砂・土・水に関わる遊び



異年齢で交流しながら思いに沿って遊んでいる砂場にも、子どもたちが、思わず関わったり、試したりしたくなる環境や援助など、様々な成長のチャンスが仕込まれています。

直接触れて感じるこ、感じたことを友達と共有すること、試すこと、イメージすること、協力することなど、遊び込むうちに、いろいろな経験が蓄積されます。

思いや気付きを伝え合いながら、心と体を動かして遊びに取り組みます。

言葉による
伝え合い

「砂が熱いよ」
「水は冷たくて気持ちいいね」
「こっちのほうが涼しいよ」
「プリンができたよ」
「おいしそう」

豊かな感性
と表現

「この穴、もっと深く
しよう」(しっかり
足を踏ん
張って)

健康な
心と体

「もっと水が
いるよ」
「こっちのバケツ
の方がいっぱい
運べるね」
「重〜!」

数量や図形、
標識や文字等へ
の関心・感覚

「小さい貝殻
見付けたよ!」
「海から
来たのかな?」

自然との関わり・
生命尊重



「すぐに崩れて
しまう」
「もう1回挑戦
しよう」

自立心

「こっちから
掘るね〜」
「こっちからも
掘るよ〜」
「やったー!
つながった」

協同性

「雨どいを持ちあげてみたら?」
「流れるスピードが速くなった!」
「もっと持ちあげてみようよ」
「めっちゃ速くなる
んじゃない?」

思考力の
芽生え

「何作ってるの?」
「こっちが海で
こっちが鳥だよ」
「ここからフェリーで
渡るんだよ」

社会生活
との関わり

「貸して」
「今使ってるからダメ」
「じゃあ後で貸して」
「うん、ちょっと
待ってね」

道徳性・規範
意識の芽生え

私たちも一緒に遊んで
感じたことを伝えよう。

雨どいの傾斜と水の流れ方に気
付いていたね。何度も流して試
せるように、水を汲む場所を近
づけておきましょう。



〇〇ちゃんは自分から「貸して」って言え
たし、貸してくれるのを待とうとしていたね。

すぐに使いたい気持ちと葛藤しながら、待とう
としている姿を認めていこう。

代わってもらってうれしい気持ちを伝えること
で、互いのことがより好きになるかも。

遊びの中の学びと環境・事例2

作ったり・描いたりする遊び



今までの経験を活かし、イメージしたことを友達に伝えたり、考えを共有したりしながら、遊びを自ら創りだしていくことで、協力し合うこと、やり遂げた達成感、相手の思いに気付くなど様々なことを学んでいきます。

学級みんなで読んだ絵本の中に出てきた恐竜が作りたくなった5歳児。
友達とイメージを共有しながら、イメージしたことを実現したいという気持ちが高まってきました。どんな環境が必要かな？

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で伝えたり、相手の話を聞こうとしたりすることを繰り返して、相談しながら遊びを創っていきます。

言葉による
伝え合い

「黄色と、赤のシマシマにするとカッコイイかな？」

豊かな感性
と表現

「大きなダンボールを組み立てるのは難しいな…。でも、諦めないよ」

自立心

「羽の形は四角より三角がいいかな」
「入る場所が分かるように、『いりぐち』って書いた紙を貼ろう」

数量や図形、
標識や文字等
への関心・感覚



「大きな恐竜を作ろう！」
「テープで羽を付けようよ」
「じゃあ、こっち側を押さえておくね」

協同性

「背中に乗れるようにするのはどう？」
「その考えいいね！」
「このダンボールが立つようにしたい」
「この棒で支えてみる？」
「2本にしてみよう」

思考力の
芽生え

「できあがったら、お客さんを呼びたいね」
「遊園地みたいにチケットを作ろう」

社会生活
との関わり

「登ってばかりいないで手伝ってよ」
「上の方を確かめていたんだよ」
「そうだったんだ」
「交代してみる？」

道徳性・
規範意識の
芽生え

昨年の年長児の遊びを思い出して、自分たちもやってみたいんだね。

どんなふうに作りたいか、どんな材料が必要か、考えたことを伝え合う場が大切だね。

うまくいかないことがあっても、諦めずに次の方法を考える姿を認めよう。



作り変えながら、イメージが膨らんできたね。遊び込める時間を確保しましょう。

子どもたちの発想が広がったり、試したりできるような素材を準備しよう。

家庭からも必要な素材を選んでくるかもしれないね。お家の方にも子どもの思いを伝えておこう。

4 プラン重点項目及び体系図、位置付けと活用について

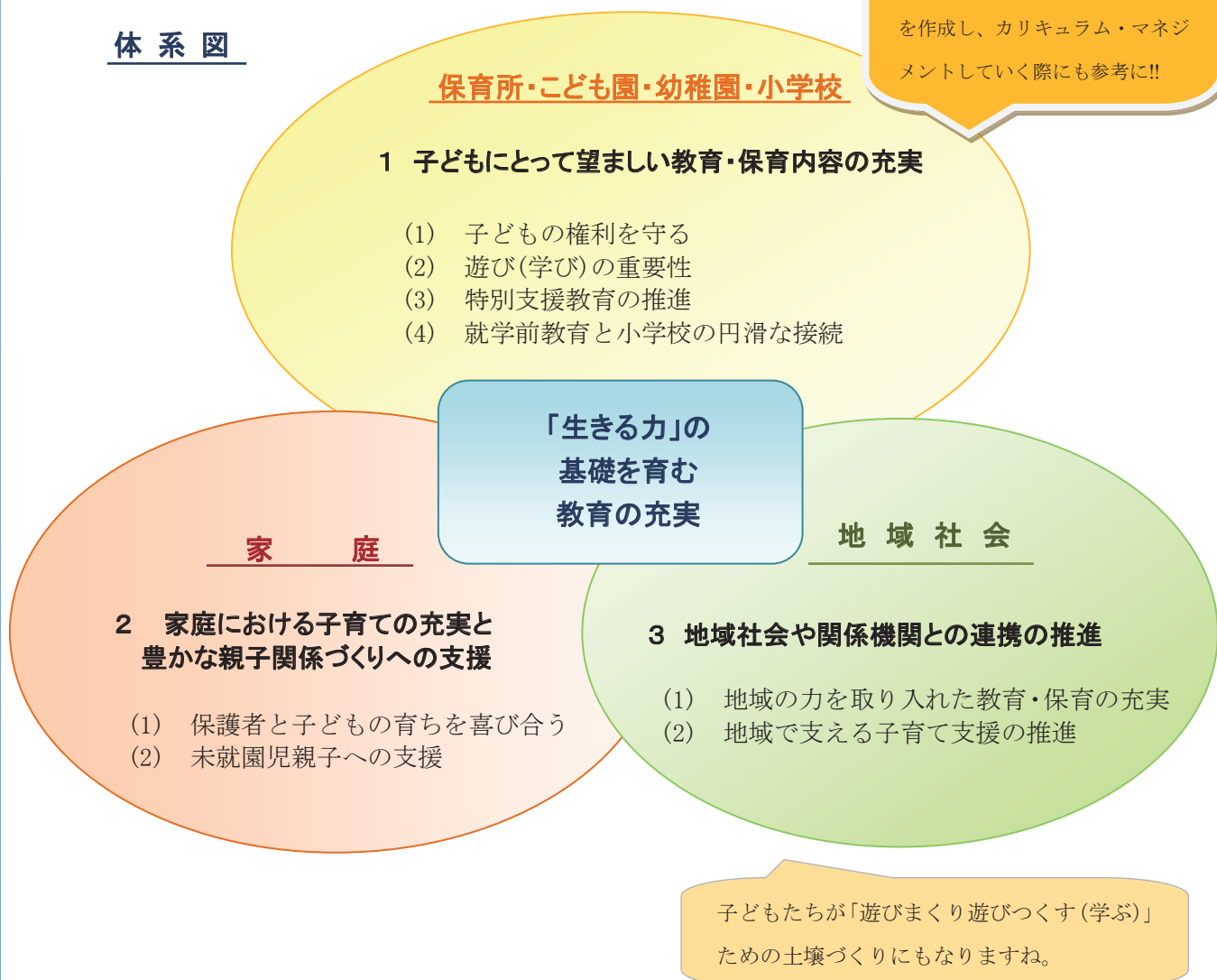
乳幼児・児童が生活する場は、保育所・こども園・幼稚園・小学校、家庭、地域社会と連続的に広がっています。子どもの生活全体を視野に入れ、その生活が充実したものになるよう、各施設や学校が家庭、地域社会と連携を図り、子どもの望ましい発達をめざしていくことが重要です。

そこで本市がめざす教育・保育の実現に向けて、次のとおり重点項目を定め、各保育所・こども園・幼稚園・学校が取り組むことを体系図に示しました。各施設・学校と家庭と地域社会が連携することで、「生きる力」の基礎を育む教育がさらに充実するものと思われます。地域性や子どもの姿なども踏まえて、特色ある教育・保育の実践に努めていただきたいと思います。

重点項目

- ◎ 子どもにとって望ましい教育・保育内容の充実
- ◎ 家庭における子育ての充実と豊かな親子関係づくりへの支援
- ◎ 地域社会や関係機関との連携の推進

体系図



高松っ子いきいきプランの位置付けと活用

教育基本法、子ども・子育て支援法、子どもの権利条約など

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園
教育・保育要領

幼稚園教育要領

小学校学習指導要領

香川県幼児教育振興指針

高松市教育振興基本計画、教育指針
高松すくすく子育てプラン

高松っ子いきいきプラン

保育所

こども園

幼稚園

小学校

教育・保育目標

教育目標

全体的な計画

教育及び保育内容並びに子育て
の支援に関する全体的な計画

教育課程

教育課程

プランを基に、各施設の教育・保育課題や、子ども・
家庭・地域などの実態を受け、独自性のある編成と
する。(※カリキュラム・マネジメント)

教育課程、
全体的な計
画の改善を
する

連携
接続

長期（年・期・月）の指導計画

指導計画

短期（週・日）の指導計画

週・日々の反
省・評価・記
録を生かして、指導計画
を改善する

保 育 実 践

授業実践

反省・評価・記録

反省・評価・
記録

乳幼児の実態及び子どもを取り巻く状況の変化などに
即して指導の過程について反省・評価する。
(乳幼児の発達の理解と保育者の指導の改善)

詳しくは
次の頁

※カリキュラム・マネジメント…計画を作成し、それを実行し、うまく
いっているかどうかの評価をして計画に改善を加えていく一連の流れ

☐ 評価・改善ができているかな？

短期の指導計画の作成・改善

子ども理解に基づく指導計画を作成（反省・評価を踏まえて改善）する。

- 子ども（個・集団）の発達を理解する。
 - 〔心情・意欲・態度〕
 - 子どもの興味・関心はどうか。
 - 自分をどのように発揮してきたか。
 - 発達課題は何か。
- 発達の過程を理解する。
 - これまでの生活経験はどうか。
 - その後の生活の流れや遊びの展開を見通しているか。
 - 具体的なねらいや内容を明確にして環境の構成や保育者の援助、活動の展開などを計画する。

環境の構成

具体的なねらいが達成できるための環境を構成する。

- 場や空間、物や人、事象や時間など関連付けて状況づくりをしたか。
- 子どもが主体的に活動できるような環境を構成したか。
- 子どもが遊びに必要な状況を生み出すことを想定しているか。
- 保育者も環境の一つとして、子どもが環境と出会い、活動の展開を予想し必要な援助を考えているか。

反省・評価

子どもの育ちを振り返り保育を見直し、改善に向ける。

- 子ども理解を深める。
 - 保育実践の中で子どもの育ちや生活実態の理解などはどうであったか。
- 指導の改善に向けて保育評価を行う。
 - 具体的なねらいや内容は妥当なものであったか。
 - 環境の構成はふさわしいものであったか。
 - 子どもの活動や個の発達課題に添って適切な援助ができたか。
- 保育記録を通して、子ども理解や保育実践の評価を深める。
 - 具体的な子どもの姿や育ちや関わり、環境の在り方、省察などの記録に努め、改善点を明らかにしたか。

保育実践

環境に関わって活動を展開する子どもに援助などをする。

- 活動を通して、子どもが発達に必要な経験を得ていくような適切な援助を行えたか。
（子どもが、どのような体験を積み重ねているのかを把握する）
- 子どもの姿を捉え直しながら、計画を絶えず組み替え、実際の保育を改善していったか。
- 必要に応じて環境の再構成をしたか。

- 子どもはどのような経験ができたか。
「資質・能力の三つの柱」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と合わせて考えてみるのもいいですね。

教職員間で記録を読み合ったり、話し合ったりして多面的に反省・評価しましょう。（保育カンファレンス）
写真や動画などを取り入れるのも効果的です。

*日々の保育を振り返ってみましょう。（チェックしてみね）

Ⅱ 具体的方策



Ⅱ 具体的方策

1 子どもにとって望ましい教育・保育内容の充実

乳幼児期及び小学校1年生までは、大人への依存を基盤として自立に向かう時期です。子どもは生活や遊び(学習活動)の中で具体的な体験を通して、生涯にわたる人間としての健全な発達や社会の変化に主体的に対応できる力など、社会で生きるための最も基本となる「生きる力の基礎」を獲得していきます。

この時期は、心身ともに個人差が大きいので、同年齢の子どもの均一な発達の基準としてではなく、一人一人の子どもの学びの個性を大切にし、発達過程として捉える必要があります。

*P.42～46 いきいき
カリキュラム参照

そこで、まずは目の前の子どもたちに視点を置き、何に興味があるのか、どういう気持ちで「人やもの、こと」と出会っているのか、どうしたいと考えているのかなど子どもを出発点にすることが大切です。そこから、子どもたちの自発性に支えられて展開する遊び(学び)を充実させていくことにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるでしょう。

そのためのひとつの方法として、普段あたりまえと思っていることや実践していることなどを、子どもの目線で捉えて教育・保育を見直していくことも必要であると考えます。本冊子の具体的方策の中に「リフレクションシート＜あたりまえを見直すために＞」を掲載していますので、園所内・校内研修等にご活用ください。

Reflection !

リフレクションシートとは・・・

*P.19～40 内
リフレクション
シート参照

自分自身の仕事や業務から一度離れ、仕事の流れや考え方・行動などを客観的に振り返り、失敗したことや成功したことなどもすべて含めて、見つめ直し、気づきを得て、新たな行動へつなげるという未来志向の方法論です。

プランに掲載されている「リフレクションシート＜あたりまえを見直すために＞」は、教育・保育を振り返る視点として項目ごとにシートを作成しています。チェック一覧を振り返ることにより、さらに他のことについても振り返りが広がったり、話し合いが深まったりすることを望みます。様々な場や方法を用いて、研修に活用していただけることを期待しています。

- ・記録をする際に、自分自身の教育・保育の振り返りとして
- ・現職教育や園所内研修・校内研修や年間の評価の際、協議の視点として
- ・様々な交流や連携（異年齢、保こ幼小、地域の方等）の計画や協議、評価の際に



(1) 子どもの権利を守る

子ども一人一人は、かけがえのない命であり、かけがえのない存在です。保育者は子ども一人一人が権利をもつ主体として、今を最もよく生きられるように、見守り、支援し、指導することが求められます。

子どもの権利は、「子どもの権利条約」（1989年に採択され成立、日本は1994年に世界で158番目に批准）に記されています。条約は、18歳未満を子どもと定義し、子どもを「保護の対象」ではなく、「権利をもつ主体」としているのが特徴であり、四つの基本原則が次のように示されています。

- 一. 子どもに対する差別の禁止
- 二. 子どもの生きる、育つ、発達する権利の保障
- 三. 子どもの最善の利益の確保
- 四. 子どもの意見を尊重すること

子どもに対する第一義的責任は保護者にあります。保護者とともに子どもの権利を守ることが大切です。家庭訪問等で保護者に向き合うことで家庭の暮らしが見え、子どもの課題をともに解決し成長を喜び合うことができます。虐待や貧困等、子どもや保護者を取り巻く状況が厳しさを増す現代だからこそ、子どもだけでなく保護者の自尊感情を育てることも求められます。保護者にもしっかりと寄り添うことが重要です。



泣いている友達に
自分が持っていた玩具を渡す
「いっしょに 遊ぼう！」



なかまのなかに
一人一人の居場所がある

高松っ子の課題のひとつに自尊感情の低さがあげられています。自尊感情の育つみちすじに添って、じっくりと丁寧に育んでいきましょう。「安心感」「信頼感」を基盤として、様々な体験を通して自己肯定感の芽を育てることが大切です。

自尊感情の育つみちすじ

子どもの姿と心の育ち（0歳児～5歳児、1年生前期）	自尊感情を育むためのポイント
愛着の時期 ↓ 愛着と人見知りの時期 ↓ 発語と探索の時期 ↓ 自我の芽生えと模倣の時期 ↓ 自我の拡大の時期 ↓ 自己主張と自立への意欲が見られる時期 ↓ 自己表出し相手の思いを知る時期 ↓ 友達の思いを受け止め目的に向かって友達と協力する時期 - 家庭での母親(主たる養育者)との愛着関係を基盤に新たな社会(集団生活)でも保育者との愛着関係を構築することで安心して集団生活を送るようになります。 特定(大好きな)の保育者に安心して身を委ねます。 - 友達に偶然体をぶつけられた子どもがその後、その友達を避けるそぶりを見せることがあれば、友達を“自分にはよくない対応をする子”と感じていると読み取れます。 保育者が「大丈夫よ、〇〇ちゃんは痛いことしないよ」と言葉を掛けることできめつけることはなくなり安心して友達に寄っていくようになります。 - 先生の抱っこがだいすき♪ 先生は、ぼくのことが好きかな？ - 友達の「遊び」が欲しい時期です。同じ玩具があっても友達が持っているものを欲しがります。欲しい玩具で心ゆくまで遊ぶことで“自分が大切にされている”と感じます。 - 順番なんて大嫌い！すぐに使いたいし、いっぱい遊びたい！ - 何でも「いや！」と言う時期です。精一杯自分の存在をアピールします。 - 何でも「自分で」やりたがります。失敗体験から学び何度も試し成功体験を積み重ねることで自信をもちます。 - 大好きな友達ができてきます。友達と“おんなじ”が嬉しい時期です。友達と一緒に過ごす時間は大切な時間です。 - やりたいという意欲が行動となり、実現すると達成感を味わい自信につながります。 - 大好きな友達を自分と同一視していた時期から、自分とは異なる存在として見るようになります。 - 自分(自分たち)のイメージの世界を楽しむようになります。 - なかま集団の力関係も感じ始めたり、なかまが固定化したりすることもあります。 “もっと難しいことをやってみよう”と友達と数人のグループで遊ぶようになります。 - 少しずつ周囲の状況を客観視ができるようになってきます。 - 自分とは違う考えの友達がいることに気がきます。自分の本音を出しにくい子どももいます。また、友達の力関係等をきめつけていることに気付く子どももいます。 - 子ども同士で遊びのルールをつくって協力して遊びを楽しむようになります。また、ひとつの目的に向かって、友達と考えを出し合ったり認め合ったり励まし合ったりするようになります。 - 当番活動や異年齢児との関わりで自己有用感を感じる子どももいます。 - 小学校生活に期待と不安をもって入学します。自己主張をする子どももいれば引っ込みがちな子どももいます。 - 今までの生活基盤のうえに立って、当番活動などをはりきってしようとしします。	まるごと受け止める ↓ 思い込みをなくす ↓ 必要のない我慢はさせない ↓ 子どもを尊重する ↓ 公平・反偏見の視点でなかま関係を見直す ↓ 新しい関係をつくる 0～2歳児は担当制が効果的です。 特定の保育者との関係ができると周りに興味が向き始めます。愛着関係を築くことは0歳児のみに必要なのではなく、入所(園)した年齢の年度当初に必要です。 0歳児も思い込んだりきめつけたりすることがあります。子どもの視線の先をしっかりと見て、丁寧に言葉を掛けるなどして、思い込みをなくしきめつけにつながらないようにすることが大切です。 - 保育者が心を込めて一人一人を抱きしめることが子どもの安心と信頼につながり自尊感情を育みます。 - 保育者は玩具を「貸してあげてね」などの言葉掛けをするのではなく同じ玩具をクラスの数分用意するなど環境を整えましょう。 - 自分でやりたい気持ちを尊重しましょう。何度も繰り返したり遊んだりできる時間の保障をしましょう。失敗することも大切な経験です。その際気持ちが立て直せるよう肯定的に関わりましょう。 - 子どもの意見を尊重し同じ目線に立ちましょう。子どもが感じていることを一緒に感じましょう。共感される体験を積み重ねることが大切です。 - 自分のイメージの世界を楽しみ、現実と希望が入り混じります。嘘をついているのではないことを理解し責めることなく子どもの思いに寄り添いましょう。 - 力関係がはっきりしてくると、思い込んだりきめつけたりする姿も見られます。また、主張の強い子どもの意見に流されることもあります。自分の考えや気持ちが伝えられるよう支援しましょう。一人一人が輝く場面をつくるのが、お互いを尊敬する機会となり対等な関係をつくることにつながります。 - 一人一人が思いを出し合い認め合う温かいなかま関係のなかでの成長を支援しましょう。また、異年齢での関わりも大切にしましょう。 - クラスの子ども一人一人との関係をしっかりとつづけていきましょう。家庭訪問等で保護者の思いも聴き取りましょう。 - 戦争は最大の人権侵害です。感性が豊かな乳幼児期から、命の尊さを丁寧に伝えていきましょう。
世界には、様々な人や言葉・文化があることにも気付いてきます。異文化等にも親しむ機会を大切にしましょう。	なんで昔の人は戦争したん？「やめて」って言うってもやめなかったん？

子どもの権利を守る

Reflection !

- ◆ 子ども一人一人の人権を尊重していますか。
 - ☐ 保育者の言葉や行動が子どもに与える影響の大きさを自覚していますか？
 - ☐ 子どもの名前を呼び捨てにしていますか？
 - ☐ 子どもの気持ちに寄り添った声かけ（代弁・共感）をしていますか？
 - ☐ 話をする時に、子どもと目を合わせ、子どもの声にじっくりと耳を傾けていますか？
 - ☐ 「あとでね」「ちょっと待ってね」と言った後で、必ず子どもの声(話)を聞いていますか？
 - ☐ 誰かと比べたり、安易に男女で区別したりしていませんか？
(「〇〇ちゃん是可以るのに」「男の子なのに」男女別のチームに分ける、男女で色分け等)
- ◆ 自己肯定感を高めるような関わりや言葉かけをしていますか。
 - ☐ 否定的な言葉かけ(「〇〇しないと△△できないよ」等)ではなく、笑顔で肯定的な言葉掛け(相づち)やうなずき等をしていますか？
 - ☐ 大人の都合やタイムスケジュールに合わせて「早くして」「急いで」などと、せき立てていませんか？
 - ☐ 子どもが失敗したり、間違ったりした時に、叱ったり、責めたりしていませんか？
 - ☐ 一人一人の子どもの居場所や輝く場面をつくっていますか？
 - ☐ 一人一人の子どもが自分の気持ちを伝えられる人間関係をつくっていますか？
 - ☐ いやなことをされた時に「いや」と意思表示ができる子どもに育てていますか？
- ◆ 一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮していますか。
 - ☐ 一人一人の子どもに愛情をもち、愛着関係を育む関わり(抱っこ、あやす、ふれあい遊び、喃語への応答等)をしていますか？
 - ☐ 生理的欲求を満たすよう、一人一人のリズム等に合わせた関わりをしていますか？
 - ☐ 「また、〇〇ちゃんが」などときめつけて、子どもに言葉掛けをしていませんか？
周りの子どもが「また…」と言っていないか？(保育者の内面を映しています)
 - ☐ 子ども理解に努め、一人一人の個性や育ちにに応じた声掛けや関わりをしていますか？
 - ☐ 子どもの苦手や嫌いをきめつけていませんか？
 - ☐ 発達や興味に合わせた遊びの準備ができていますか？
 - ☐ 満足するまで遊びこめる教材や環境を整えていますか？
 - ☐ 子どもが失敗しないように先回りして、ヒントを与えたり手伝ったりしていませんか？
 - ☐ 保護者が子育てに前向きになれるような言葉かけをしていますか？
 - ☐ 子どもの前で、保護者を否定していませんか？
(「また、忘れ物して」「お家の人、休みなのに」等)
 - ☐ 一人一人の家庭の経済状況や環境、文化の違いを理解し、子どもの気持ちに配慮していますか？
(休日の過ごし方、誕生日、クリスマス等)



（２） 遊び（学び）の重要性

子どもにとって「遊び」は、育っていくための大事なエネルギーになる「ごはん」のようなものです。

まずは、子ども一人一人の存在を尊重し、発達の個人差を理解して、安定した生活リズムを作ることが、「遊び」の土台となります。集団で過ごす中で、一律に子どもを見るのではなく、個人差や気持ちを理解しながら、安定した生活ができるようにしましょう。

周りの人に受け入れられているという安心感をもち、したいことができる自由感のある環境があれば、子どもは遊び始めます。

そして、子ども自身の“やってみたい”という気持ちから始まった活動で、自分の心や体を動かして夢中になって「遊びまくる」ことは、好奇心、探求心、感覚、根気、思考力、判断力、表現力・・・等様々な力を育てます。自分が満足するまで「遊びまくる」体験は、達成感、自信、意欲等生きる力につながっていくのです。

子どもは主体的に遊び、探求し、試行錯誤をし、時には失敗を繰り返してもあきらめないうで何度でも挑戦します。自分の心を動かし、疑問や葛藤を感じながら「遊びつくす」経験の中で、自分の思いが自分の力で実現され、満足感や達成感をもち、自己肯定感が育まれていくのです。



「遊びまくる」「遊びつくす」ために、保育者ができること

子どもは、友達と気持ちを合わせながら遊ぶことが大好きです。時にはぶつかり合いながらも、解決していくことで、人との折り合いのつけ方も学びます。保育者が解決し過ぎてそのような経験を奪わないように、見極めながら関わりたいものです。幼児期は、長い人生を人と一緒に生きていくための、人間関係を学ぶ時期でもあります。

「遊びまくる」「遊びつくす」ためには、時間の経つのも忘れて、没頭できるたっぷりの時間が必要でしょう。行事に追われることが多くなりがちですが、遊び込める時間の確保を保育者間で話し合って工夫しましょう。

また、「遊びまくる」「遊びつくす」には、子どもの発想で思いを実現できるような環境が大切です。使いこなせる十分な材料、働きかけの余地のある操作性や可塑性のある環境が有効です。保育者は子どもと共に楽しみ、子どもの発想をヒントにし、保育者間でアイデアを出し合いながら、遊びの空間づくりの工夫をしましょう。

遊びの広がり、深まりのイメージ

遊びつくす

続きができるように
この場所はそのま
まに置いておこう

協同性

それいい、招待状書く？

小さいお友達も招待したらどうかな

本当だ、お昼からも続きしようよ

しようしよう！

あー、楽しかった！

満足感、達成感

もう給食の時間だ！

材料も集めなきゃね

品物もたくさん作らな
きゃ足りないね

もっともっと作ろう！

ぼくが作るわ

財布やカバンも！

遊びが盛りあがって
きたから、時間をた
っぷり使って遊べる
ようにしよう

時間を忘れ集中する

そうだね！交代でしょう

友達と意思を出し合い 折り合いをつける

ぼくだってお店屋さんがいい！

そうだ、お店屋さんしない？

お金は？

交代でしたら？

楽しそう！
ぼくも入れて！

したい！私がお店するから
お客さんになって！

遊びまくる

もめてるけど
見守ろうかな

イメージを共有する

どんな材料があっ
たら、遊びが広が
るかな...

たくさんできたね

お店屋さんみたい

私も入れて！

わたしも作ってみたいな

意欲

もっと作りたい！

失敗しても繰り返し挑戦する

もう1回！

できた！

こうして
みようかな

やめた！

やっぱりできない

こっちの方法も
あるよ

挑戦

思ったようにできないな...

気持ちの葛藤

好奇心

作ってみたい！！

遊びとの出会い

先行経験

ままごと遊び

みたて遊び

お店屋さんごっこ

遊びの時間を確保する



もっと遊びたい！
まだ、しよるのに・・・

またそれ？
いまは したくない・・・

もう 遊びにいてももええ？

- 行事が主となり、思いに添って遊ぶ時間を後回しにしていますか？
- 今からしようとしていることは、絶対に「今」でないとはいけませんか？→事例①
- しようとしていることは「みんなで一緒に」でないとはいけませんか？→事例②
- 予定（活動）の間を埋めるだけの「遊びの時間」をつくっていませんか？
- 子どもたちが「ただ待たされる」時間をつくっていませんか？→事例③

事例① もっと遊びたいな～！

夏頃、プール遊びや行事などで自由遊びの時間が少なくなってきたり「暑いー」と戸外に行きたがらない子どもが増えてきた。

そこで、朝の涼しいうちに戸外遊びをしたり、夕方の降所までの時間に、思いに添って遊んだりする時間を確保するために、保育の進め方を見直した。おやつ時間を利用して、翌日の予定を伝えることで、夕方にゆったりと室内遊びができる時間をもつようにした。

子どもたちは、登所時に予定を見ながら朝の片付けをすませたら、戸外へと、見通しをもって行動できるようになってきた。また、夕方の思いに添った遊びの時間が増えたことで、迎えに来た時に「もっと遊びたかった」という声も減り、友達を誘い合っていたい遊びを十分に楽しむ姿が見られるようになった。

事例② 満足いく遊びの保障

デイリープログラムをもとに保育を進める中で「さあ、片付けしておやつ食べるよ」と一斉に片付けをする時間をとっていたが、それは子どもの遊びを保障できているのか、という意見が保育者からあがった。

そこで一人一人のタイミングで遊びに区切りをつけ、おやつや食事に向かえるように、声掛けの仕方を変えた。おやつが用意されている様子を見て、急いで片付け、手を洗いに行く子ども、もうちょっとと今の遊びを続ける子ども、それぞれの姿が見られた。

一斉に片付けをしていた時よりも、スムーズに遊びからおやつ・食事に移行できることが多くなった。

事例③ 待つ時間も楽しんで

自分が好きなものになりきって遊ぶことが好きな子どもたち。プリンセスや忍者などの衣装や手作りのグッズを身に着けて、ステージでのびのびと踊ることを繰り返し楽しんでた。保育者が、子どもたちが安心して踊るを楽しめるように、客席として用意したベンチの後ろやステージ前で見えるように踊っていた。

そんな中、A 児が巧技台を運んできた。「A も先生になって踊るんやで」と言って台の上で、ステージの友達の方を向いて踊り始めた。「A ちゃん先生もすてきに踊っています」と保育者が実況するように声を掛けると、違う遊びをしていた周りの子どもも巧技台を持って来て、A 児と同じように踊り始めた。そして、自分のしたい忍者の番になると、大急ぎでステージに上がって「しゅりけん忍者」を踊り、楽しんでた。

友達の踊る様子を見ながら、自分の出番を待つことも、楽しさの一つであり大切だと思う。同時に、子どもの“一緒に踊ってみようかな”“先生みたいにやってみよう”と心を動かして行動したことに共感し、目の前の子どもに応じた環境構成や関わりをしたことで『出番を待っている時間』が、より楽しい時間になったと感じた。



遊びの空間を確保する

Reflection !

あっち行きたい！
こっちも行きたいな



ここでは
できんわ

部屋ばかりでつまんなーい！

- ☐ 固定観念にとらわれて遊びを制限していませんか？→事例①
- ☐ 子どもは安心して遊べていますか？→事例②
- ☐ あなたの「見守り」は危険回避のためだけのものになっていませんか？
- ☐ 子どもの思いやつぶやきを拾い、その環境を見直したり、再構成しようとしたりする保育者の心のゆとりはありますか？→事例③

事例① 廊下って楽しい！

保育室という空間だけでは、遊びが単調になってしまうため、廊下を環境の一部として保育に取りこんでみた。

遊びの空間として取り入れたことで子どもたちのいきいきとした表情が見られるようになり、保育者の静止する言葉掛けも少なくなった。

ほかのクラスの子どもたちと混ざり合って遊ぶ姿も見られ、異年齢交流にもつながってきている。



事例② 今日も宝探しする？

水が苦手なためプール遊びでは消極的な姿だったE児。大きさの違うプールを用意し、どちらで遊ぶか自分で選択できるようにした。

また、それぞれのプールによって活動内容を変えたり、水に全身が浸からなくてもいい宝探しゲームを取り入れたりすることで、プール遊びに安心して参加する姿が見られるようになってきた。



事例③ あおむしさん 見に行ってくる！

アゲハチョウの黒い幼虫からあおむしへの変容を観察し、楽しんでいる。子どもたちが楽しんでいることを保護者にも一緒に感じてもらいたいと思い、廊下の机に観察ケースを移動させた。登降園時に保護者と一緒に、大きくなっていくあおむしを観察する姿が見られる。廊下横テラスで咲いていたビオラにヒョウモンチョウの幼虫も見つけ、共に観察することにした。廊下とテラスで観察を続け、保育室には絵本の『はらぺこあおむし』や生き物図鑑を置いた。自分から「あおむし見に行ってくる！」と主体的に行動することで、よりあおむしに対する興味が深まり、成長していく過程を楽しむことができた。



子どもが生活する中で

Reflection !

先生、してー
先生、みよっ
てよー



おいしいのう、これー
もうおなかおきた
先生食べれたよ
食べるけん、みよってー

おいしかったー
もっといるー。

できたよターッチ!!

いやー、いきとうない
今、あそびよるけん、いや

- ☐ 子どもの思いを知ろうとせず「一口だけがんばってみよう」と安易に言っていませんか？
- ☐ 子どもが自分なりに苦手な物も食べてみようと思えるような関わりをしていますか？
- ☐ 子どもに声を掛けながら、オムツ交換をしていますか？
- ☐ 子どもの排泄のタイミングを保育者が大切にできていますか？
- ☐ 子どもの不安な気持ちを受け止めながら、生活習慣が身に付くようにしていますか？

→事例①

→事例②

事例① 食事における個のペース に合わせた支援（1学期）

給食が初めての3歳児が、給食に興味をもち「食べてみたい」と思えるように、給食開始当初は好きなものを食べたらお代わりができるようにし、園生活に慣れたころには、いろいろなメニューも徐々に食べるよう声を掛けた。

そんな中、あまり意欲的に食べる姿が見られなかったA児とB児がいた。一緒に給食を食べたり、保護者と食事の様子など、伝え合ったりすることを通して、次第に子どもの好みが増えてきた。給食に興味をもち「食べてみたい」と思えるように、好きなものから進めていくようにした。保育者は「おいしい?」「ご飯いっぱい食べたね」等、自分から食べようとする気持ちを認めていくようにした。

少しずついろいろな食材を口にしたいと思い、水筒のお茶を飲もうとしていた二人に「牛乳を一口飲んだら、お茶を飲もうか」と提案してみた。すると自分からストローに口をつけた。とても大きな一歩だと思い「すごい!」と声を掛け、T2にも伝えた。T2からも「すごいね」と声を掛けられて二人はうれしそうに顔を見合わせた。

7月には、カレーをおかわりしたいという思いから、保育者に「じゃあ、ちょっとお野菜も食べてみようか」と言われ、A児は海藻サラダを口にしました。B児もまた、保育者の声掛けにより野菜を食べるなど、二人とも食べる食品の種類や量が増えた。



事例② 意欲や自信につなげるために

5月中旬「幼稚園のトイレはいやだ」と言っけ行こうとしないC児。園のトイレに行きたいと感じられるように、好きな新幹線の絵を用意し、個室のトイレの壁面にC児が自分で貼るようにした。

喜んでトイレに行くようになったが、排尿のタイミングが合わない日が続いた。そこで「出ない」と言ってもC児の隣でしばらく待ち、色違いの新幹線を増やしたり、動かすことができるようにしたりした。また、体がよく動くため、便器に座ったり立ったりいろいろな方法で試してみる姿も認めるようにした。別の日に、T2がC児に付き添った時、しばらく待つと成功した。その後「おしっこ出たよ」とC児が保育者に嬉しそうに伝えにきたので「やったね」とハイタッチし、C児を抱きしめた。



（３）特別支援教育の推進

保育所・こども園・幼稚園・小学校の教育・保育において、障がいの有無にかかわらず、どの子どももかけがえのない存在として一人一人を大切に受け止めていくことが重要です。特別支援教育においての大切な視点として、合理的配慮やインクルーシブ教育の観点を踏まえ、一人一人の困難さが異なることに十分留意し、子どもの障がいの状態に応じた指導内容や方法の工夫を検討し、適切な支援を行うことが大切です。しかし、限られた時間の中で、教職員間で情報を共有することや、多様化した保護者との支援の共通理解など、特別支援教育を推進していくうえでの課題も多く見られています。教職員は、障がいの種類や程度を的確に把握したうえで、子どもの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な手立てを検討し、指導にあたっていく必要があります。障がいに対する知識や配慮等についての正しい認識を深め、障がいのある子ども一人一人に応じた指導を充実させるためには、専門的な助言や援助を要請したり、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成し活用したりするなど、組織的に取り組みそのことを小学校以降へつなげ、実効性のあるものにすることが大切です。

＊合理的配慮・・・障害者の権利に関する条約「第二十四条 教育」においては、教育についての障害者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容する教育制度等を確保することとし、その権利の実現に当たり確保するものの一つとして、「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること。」を位置付けている。

＊インクルーシブ教育・・・子ども一人一人の多様性と基本的人権を保障し、どの子どもも保育の活動に参加することを実現すること。

☆平成30年4月改訂、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「障害のある幼児などの指導に当たっては、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、活用に努めること」と新に明記されています。

☆保育所保育指針では、「場面に適した行動などの具体的な目標を、その子どもにとって課題となっていることが生じやすい場面や状況、その理由などを適切に分析する。その上で、場面に適した行動などの具体的な目標を、その子どもの特性や能力に応じて、1週間から2週間程度を目安に、少しずつ達成していけるよう細やかに設定し、そのための援助の内容を計画に盛り込む」と明記されています。

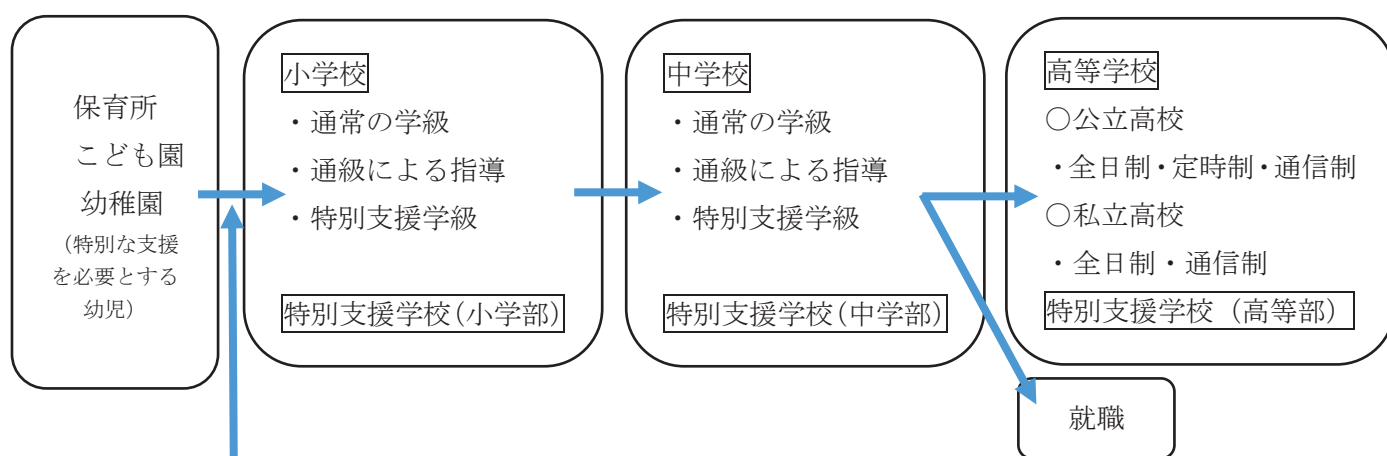
※引用文献： 「障害者の権利に関する条約における「合理的配慮」」（文部科学省）
「幼稚園教育要領解説」（文部科学省） 「保育所保育指針」（厚生労働省）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府 厚生労働省 文部科学省）
「初等教育資料」 平成31年4月号（東洋館出版社）

＊個別の指導計画：カリキュラムの中に子ども一人一人のニーズに基づく指導の個別化を具体的に計画したものです。活用することにより「指導や支援をつなぐ」などの効果があります。

＊個別の教育支援計画：障害のある子ども一人一人に対して、教育、医療、福祉、労働などの関係機関が連携し、乳幼児期から学校卒業までを通じて一貫した支援を効果的に行うための長期的な計画です。

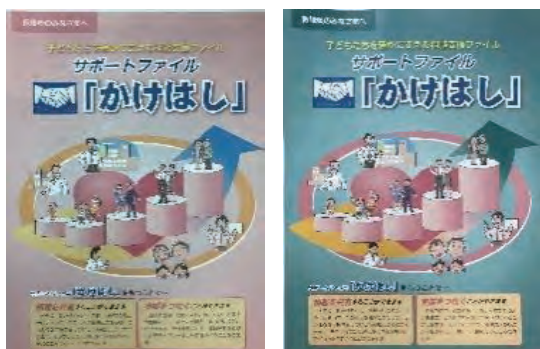
【サポートファイル「かけはし」・移行支援シートとは】

乳幼児期から成人期に至るライフステージに渡って、教育、福祉、保健、医療、労働、その他関係機関が包括的で一貫した支援を行うための情報共有ファイルです。



サポートファイル「かけはし」

生涯にわたって支援するための相談支援ファイル

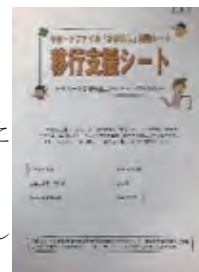


保護者用

教職員用

移行支援シート

高松市では、進学先での支援の引継ぎを、より円滑に行うために「かけはし」の補助資料として活用していただけるよう配布しています。(平成30年度改訂版)



このファイルの作成は、進級、進学する際に、子どもの「支援を要する内容」や「継続的な支援によって変容した内容」また、どのような機関と連携を図り、どのような支援者とかかわってきたか等、後々支援者にその情報を引き継ぐことになり、一貫した指導・支援を実現するために有効です。

<参考資料>

- ・「教育支援資料」 平成25年10月
(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)
- ・「連携しながら支援する - 特別支援教育ネットワークブック -」
(高松地域特別支援連携協議会)
- ・「高松市障がい者ガイドブック」 平成30年3月 (高松市健康福祉局福祉事務所障がい福祉課)

【 ユニバーサルデザインに配慮した視覚的な支援の工夫 】

楽しく、がらがらうがい



上を向いてうがいをする時の子どもたちの目線に合わせて絵を表示することがポイント！

こえのもののさし



場面に応じた声の大きさがいろいろあるね

どっちにいれる？



子どもたちに分かるように、絵で表示しています。
分別するのも楽しくなるよ。

トイレトペーパーの長さは？



ちょうどいい長さはこのくらいだよ！

あとは、自分で必要な長さがわかっていくといいね！

ぴかぴかに はをみがこう！



ぴかぴかになったかな？

表示と鏡を見ながら、歯をぴかぴかに磨くよ！

特別支援教育に関する主な相談窓口一覧

<特別支援教育の関係機関>

①公的機関

	名 称	所在地	電話番号
1	香川県健康福祉部子育て支援課	高松市番町4-1-10	(087) 832-3282
2	香川県健康福祉部障害福祉課	高松市番町4-1-10	(087) 832-3291
3	香川県子ども女性相談センター	高松市西宝町2-6-32	(087) 862-8861
4	〃 電話相談	〃	(087) 862-4152
5	香川県障害福祉相談所	高松市田村町1114 かがわ総合リハビリテーションセンター内	(087) 867-2696
6	香川県精神保健福祉センター	高松市松島町1-17-28	(087) 804-5565
7	香川県発達障害者支援センター 「アルプスかがわ」	高松市田村町1114 かがわ総合リハビリテーションセンター内	(087) 866-6001
8	高松市健康福祉局こども園運営課	高松市番町1-8-15	(087) 839-2358
9	高松市健康福祉局障がい福祉課	高松市番町1-8-15	(087) 839-2333
10	高松市総合教育センター	高松市末広町5	(087) 811-2161
11	高松市保健センター	高松市桜町1-9-12	(087) 839-2363

②教育機関

	名 称	所在地	電話番号
1	香川県教育委員会義務教育課	高松市天神前6-1	(087) 832-3740
2	〃 生涯学習・文化財課	〃	(087) 832-3770
3	〃 特別支援教育課	〃	(087) 832-3756
4	香川県教育センター教育相談課	高松市郷東町587-1	(087) 813-0955
5	〃 (電話相談専用)	〃	(087) 813-0945
6	香川県立盲学校	高松市扇町2-9-12	(087) 851-3217
7	香川県立聾学校	高松市太田上町513-1	(087) 865-4492
8	香川大学教育学部附属 特別支援学校「やまもも教室」	坂出市府中町字綾坂889	(0877) 48-2694
9	香川大学大学院教育学研究科 心理臨床相談室	高松市幸町1-1	(087) 832-1074
10	香川大学大学院教育学研究科 特別支援教室「すばる」	坂出市青葉町2-7	(0877) 46-8532
11	香川中部養護学校「にこにこ教室」	高松市田村町784	(087) 867-3522
12	香川東部養護学校「わくわく教室」	さぬき市長尾西475	(0879) 52-2581
13	高松養護学校「教育相談」	高松市田村町1098-1	(087) 865-4500
14	東部教育事務所	高松市松島町1-17-28	(087) 837-8778

③医療機関 ※発達障がい等の診察・診断のできる病院です。

	名 称	所在地	電話番号
1	あんどう発達クリニック	高松市多肥下町5 1 7 - 1 0	(087) 867-0234
2	えないメンタルクリニック	高松市観光町6 4 9 - 8	(087) 813-1613
3	大西病院	高松市上天神町3 3 6	(087) 865-3330
4	香川県済生会病院 小児科	高松市多肥上町1 3 3 1 - 1	(087) 868-1551
5	香川県立中央病院 小児科	高松市朝日町1 - 2 - 1	(087) 811-3333
6	かがわ総合リハビリテーション病院	高松市田村町1 1 1 4	(087) 867-6008
7	香川大学医学部附属病院	木田郡三木町池戸1 7 5 0 - 1	(087) 898-5111
8	〃 子どもと家族こころの診療部	〃	〃
9	キッズメディカルまなべ	高松市太田上町4 2 0 - 1	(087) 869-4155
10	五色台クリニック	高松市寿町1 - 4 - 3	(087) 822-2311
11	さんあいクリニック	高松市松縄町1 0 0 5 - 3	(087) 816-3192
12	三条山下内科病院	高松市三条町5 0 4 - 1	(087) 867-1201
13	讃陽堂松原病院 小児科	木田郡三木町大字池戸 3232-1	(087) 898-0620
14	しぶや小児科クリニック	高松市牟礼町牟礼2 1 0 0 - 1	(087) 845-6111
15	しらかわ小児科病院	高松市一宮町9 7 - 7	(087) 889-2107
16	すくすくクリニックこにし	木田郡三木町大字氷上2 0 6 - 1	(087) 813-7876
17	高松赤十字病院	高松市番町4 - 1 - 3	(087) 831-7101
18	トビウメ小児科医院	高松市伏石町1 3 9 0 - 1	(087) 865-3111
19	西岡医院	高松市寺井町1 3 8 5 - 1 0	(087) 885-2021
20	西春日小児科病院	高松市松並町5 5 9 - 3	(087) 867-7070
21	へいわこどもクリニック	高松市栗林町1 - 4 - 1 1	(087) 835-2026
22	むらかわクリニック	高松市朝日町2 - 2 - 7	(087) 823-2525
23	やまぐちクリニック	高松市天神前5 - 6	(087) 832-5611
24	りつりん病院	高松市栗林町3 - 5 - 9	(087) 862-3171

※①②③連携しながら支援するー特別支援教育ネットワークブッカーより 一部抜粋

④高松市障がい者基幹相談支援センター

1	障害者生活支援センターあい	高松市前田東町5 8 5 - 2 1	(087) 847-1021
2	障害者生活支援センターたかまつ	高松市田村町1 1 1 4	(087) 815-0330
3	障害者相談支援センターりゅううん	高松市仏生山町甲2 4 3 6 - 1	(087) 815-5266
4	障害者地域生活支援センターほっと	高松市川島東町1 9 1 4 - 1	(087) 840-3770
5	相談支援事業所ライブサポートセンター	高松市岡本町字上新開6 0 - 1	(087) 815-7877
6	高松市障がい者基幹相談支援センター	高松市福岡町2 - 2 4 - 1 0	(087) 880-7012
7	地域活動支援センタークリマ	高松市牟礼町原8 8 3 - 1 6	(087) 845-0335
8	地域生活支援センターこだま	高松市木太町1 9 9 7 - 3	(087) 802-2660

※④高松市障がい者ガイドブックより 一部抜粋

(4) 就学前教育と小学校教育の円滑な接続

① 幼児教育から小学校教育へ

「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」や「幼稚園教育要領」及び「小学校学習指導要領」が改訂され、保こ幼小の円滑な接続が重要であることが示されました。保育所・こども園・幼稚園での生活や遊びを中心とした学びと、小学校の教科を中心とした学習とでは様々な違いがあります。具体的には教職員が子どもの姿を捉えながら展開していく遊びを中心の生活から、教科書等を通しての学習が中心の生活になります。また、チャイムの合図で行動したり、机や椅子に座って学習する時間が多くなったりします。このような段差を明らかにし滑らかな移行をするためには、保育者と小学校教員との相互理解や、保育所・こども園・幼稚園と小学校との連携や交流の機会を充実させ、双方の共通理解を深めることが重要です。

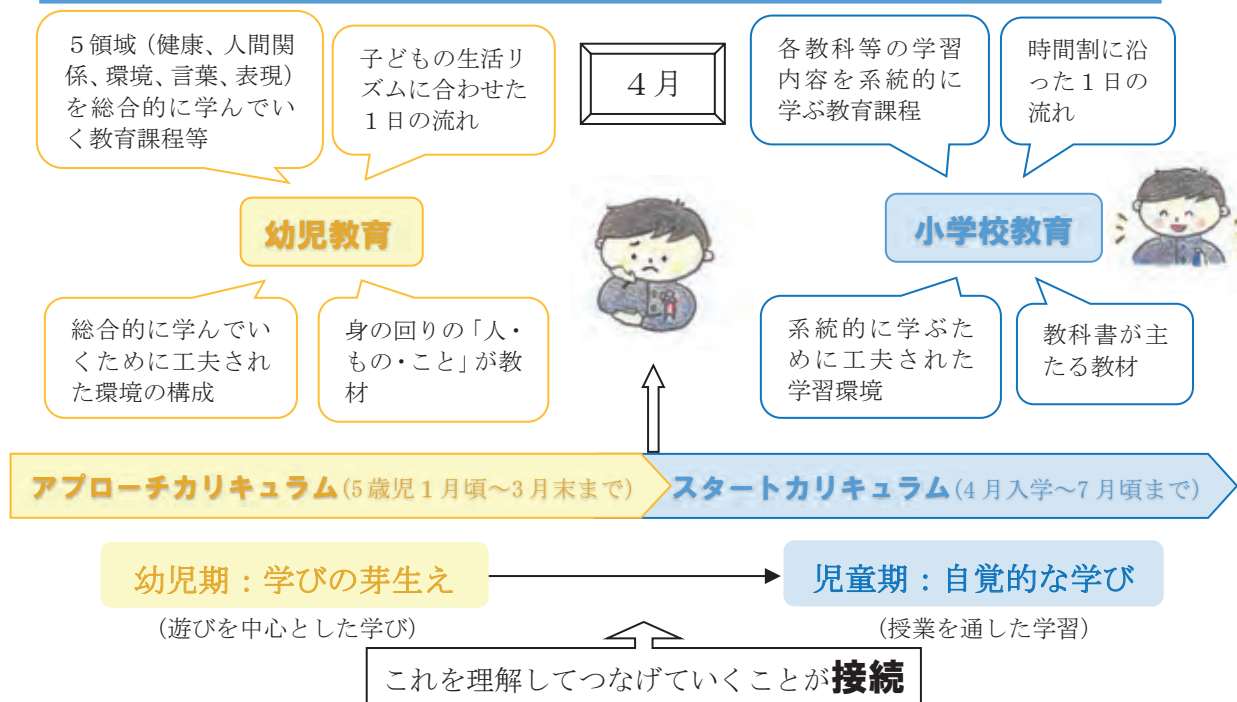
ゼロからのスタートじゃない！
「遊び込み」から「学び込み」へ



幼児期には、新しい環境の中で、主体性を発揮できるように豊かな経験をしてきました!!

4月、たくさんの期待と少しの戸惑いを抱えて子どもたちの新しい生活がスタートします。

就学前教育から小学校教育への円滑な移行には、就学前施設と小学校の教職員が二つの教育原理の橋渡しをしたり、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿**」や**高松っ子いきいきプランの視点(3P)**について十分理解したうえで、これらを手掛かりに子どもの成長を共有したりすることが重要です。また、入学当初はスタートカリキュラムや学習環境の在り方の工夫をするなどして、発達や学びの連続性を確保することが大切になります。



② アプローチカリキュラム作成のポイント ～小学校を意識した保育を！～

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、つなげるべき「資質及び能力」などが分かりやすく示されていることが大切です。



小学校と情報交換を行ったり、交流活動を計画・実施したりして小学校教育を知り、1年生の児童の姿につながるカリキュラムである必要があります。

小学校1年生の教科書や小学校学習指導要領等を見ながら作成することも大切ですね。早期教育にならないように気を付けましょう!!

カリキュラムを作成して終わりではなく、カリキュラムの評価や改善、いわゆるPDCAサイクルでカリキュラム・マネジメントを行いながら、保育の質を担保することも重要ですね。

就学前教育を小学校教育につなげるために、幼児の成長や教職員の働き掛けの意図を、分かりやすく小学校の先生に伝えていきましょう!!

*45P『いきいきカリキュラム』参照

③ スタートカリキュラム作成のポイント ～幼児教育を踏まえた学校教育を！～



入学当初は、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切です。幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた生活科を核として、楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、主体的に自己発揮しながら学ぶ意欲が高まるように活動を構成しましょう。

入学当初においては、スタートカリキュラムを編成しましょう!!

全教職員で検討するとともに共通理解を図ることが大切です。

スタートカリキュラム編成の手順

学びの芽生え
(幼児期)

① 幼児の発達や学びを理解する。

自覚的な学び
(児童期)

② 期待する児童の姿を共有する。

③ 各学校のスタートカリキュラムを編成する
□ 成長の姿を週や月の単位で明らかにする。
□ 成長の姿に適合した単元（合科・関連など）を構成し配列する。
□ 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。

園(所)の先生に参観してもらい、子どもの姿や指導の在り方について話し合しましょう!!

<参考資料>

- ・「スタートカリキュラム スタートブック」(平成27年1月)
- ・「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」(平成30年3月)

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

※引用文献:「これからの保幼小接続カリキュラム」 令和元年7月 木下光二著 チャイルド本社
「幼稚園教育要領解説」(文部科学省) 「保育所保育指針解説」(厚生労働省)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府 厚生労働省 文部科学省)

④ 子ども同士の交流

～幼児期・児童期双方の教育課程・全体的な計画等が反映された活動を！～

事例 【子ども同士の交流を深めるために】 第1回保幼小交流会 (6月下旬)

ねらい	幼稚園（保育所）・・・小学生が遊び慣れた幼保共有の運動場で、好きな遊びを楽しむ中で、小学生や同じ学年の友達と触れ合い、親しみをもつ。 小学校・・・・・・ペアの友達と楽しく過ごせるよう考えて、声掛けをしたり一緒に遊んだりする。		
交流に向けて	《幼保小教職員との打ち合わせ》 ・交流計画は、幼保小が順番に作成する。 ・幼稚園、保育所での遊びの様子や小学校の活動について情報交換しながら、交流の内容を考える。 ・子どもの姿について話し合い、ペアづくりをする。		
	《子どもとの話し合い》		
	幼稚園 ○昨年度の交流活動の様子を見ていた子どもたちが、今年は「自分が1年生と交流する」という期待をもてるようにする。 ○交流の内容を話したりペアの名前を知らせたりして、1年生と一緒に遊ぶことを楽しみにできるようにする。 ○交流活動について保護者に伝え、家庭でも話題にするなど楽しみにできるようにしてもらう。	小学校 ○交流の内容を伝え、ペアの名前を知らせる。自分とペアの名札を作り、楽しみにできるようにする。 ○道徳「はやとのゴール」で学んだ「相手のことを考えて優しく接する」ことのよさを想起させる。さらに、日頃6年生にしてもらっていることを考えて、どのような言葉掛けをすることが、幼稚園や保育所の友達を楽しい気持ちにさせるか話し合う。	
《主な活動》（全員で）ラウンドチェーン（ペアで選んで遊ぶ）サッカー ドッジボール 泥団子 一輪車			
《交流の様子》		《交流を終えて》	
1年生がやさしくしてくれたよ。 一緒に泥団子を作って楽しかったよ。 喜んでくれてうれしかった。また、一緒に遊びたいな。 一緒に遊んで楽しかったよ。 何して遊ぶ？ ぼくは、サッカーしたかったな～ 楽しかったね。ペアの名前を覚えてたよ。		幼稚園 1年生が書いた作文を子どもたちに見せたところ、自分の名前を覚えてくれたことを喜んだり一緒に遊んだことを友達と伝え合ったりする様子が見られた。「また一緒に遊びたい」と次に会うことを楽しみにする姿にもつながった。 小学校 ペアの名札作りを通して、仲良くするという意識をもち参加することができた。また、ペアの顔を覚え、親しみをもつことができた。この時期に交流したことは、秋のおもちゃづくりで、ペアの友達がどうすれば喜んでくれるか考えながら取り組めることにつながると思う。	
《振り返り》 全員で行った触れ合い遊び『ラウンドチェーン』は、いろいろな友達と触れ合うことを楽しむことができていた。繰り返す中で、自然と掛け声がでたり笑顔が見られたりした。ペアで遊びを選ぶ時に幼稚園児と1年生のやりたいことにずれがあり、1年生が幼稚園児に合わせるペアもあった。 <u>幼稚園・保育所児と1年生が共に自分の力を発揮し、十分に楽しめる活動になることがよりよい交流になる</u> と感じ、今後の活動内容の見直しにもつながった。			

☆ 振り返りのポイント

- ☐ 子どもの姿は、ねらいを達成していたか。
- ☐ 活動内容は、子どものこれまでの経験や学びを生かして主体的に取り組めるものであったか。
- ☐ 保育者と小学校教員の子どもへの関わりは適切であったか。
- ☐ 実施後に子どもの活動や言動(姿)に変化はあったか。

子どもの学びを小学校につなぐ（就学前の先生の振り返り）

わたし、こんなことができるんよ！



小学校に行くん、楽しみやな

【交流計画について】

- ☐ アプローチ・スタートカリキュラムを活用した計画になっていますか？
- ☐ “去年と同じでいいや”と、検討をせずに計画していませんか？
- ☐ 互いの先生が経験してほしいことや大切にしたいこと等の意見を出し合いましたか？
- ☐ 活動の内容に無理はないですか？活動先行になっていませんか？
- ☐ 交流計画の内容を他のクラスの職員に周知していますか？
- ☐ 交流後の互いの育ちについて話し合う場をもちましたか？→事例①

【就学前施設の先生の振り返り】

- ☐ 子どもが自己表現する姿を十分に認め、自信や意欲につながるよう関わっていますか？
- ☐ 「そんなことしたら小学生になれんよ」などと子どもにプレッシャーをかけていませんか？
- ☐ 小学校への緊張感を和らげる工夫をしていますか？→事例②
- ☐ 小学校の先生が就学前施設に来て子どもの様子を見る機会を計画していますか？
- ☐ 小学校の先生に就学前施設で何を学んでいるかを引き継ぐ機会を設けていますか？

事例①子どもの育ちを語り合おう(11月)

小学校での“おもちゃまつり”の後、幼稚園に先生たちが集まり、撮影した動画を見ながら、子どもの姿を出し合い、育ちについて協議した。

「いつもはあまり自己表現しない幼児が、自ら小学生の傍に座り、会話を楽しんでいた。」(年長児担任)

「幼児にやさしく接したり、場を盛り上げたりする1年生の姿が見られた。日頃は見られない姿で驚いた。」(1年生担任)

互いの先生たちが同じ映像を視聴して話し合ったことは、多面的な子ども理解につながった。共有した子どもの姿を今後の交流にいかしていけると思った。



事例②小学校に行ってみよう(7月)

幼稚園でのプール遊びを楽しむ中で「もっと広いプールで思い切り遊びたい」という思いが膨らんできていたが「小学校のプールは深くて怖いらしい」という不安を感じている子どもたちもいた。

そこで、園長を通して小学校に依頼し、プールを使わせてもらう機会をつくった。個々で慣れていく過程は違ったものの、実際に体験することで不安を取り除き、小学校に関して『知っていること』『経験したことがあること』が増えることが入学への期待につながるのだと感じた。



子どもの学びを小学校につなぐ（小学校の先生の振り返り）

先生あのね、自分でできたよ！またやってみたいな。



アサガオの花が咲いて嬉しかったよ。花について見つけたことを教えてあげたいな。

【交流計画について】

- ☐ アプローチ・スタートカリキュラムを活用した計画になっていますか？
- ☐ “去年と同じでいいや”と、検討をせずに計画していませんか？
- ☐ 互いの先生が経験してほしいことや大切にしたいこと等の意見を出し合いましたか？
- ☐ 活動の内容に無理はないですか？活動先行になっていませんか？
- ☐ 交流計画の内容を他のクラスの職員に周知していますか？
- ☐ 交流後の互いの育ちについて話し合う場をもちましたか？

【小学校の先生の振り返り】

- ☐ 少しの時間でも、普段の保育を参観したり、授業を保育者に見てもらったりしたことがありますか？→事例①
- ☐ 入学前の聞き取りでは、子どものよさと配慮事項が引き継がれ、クラス編成や学級経営に活かされていますか？
- ☐ 要録や聞き取りを通して理解した一人一人の子どもの個性を、環境構成や活動内容、支援に活かしていますか？
- ☐ 就学前教育で親しんできた手遊びや歌を知っていますか？→事例②
- ☐ 一人一人の子どもが就学前施設で夢中になった遊びを知っていますか？

事例①おもちゃを作ろう（10月）

幼稚園の友達と一緒におもちゃランドを計画した。生活科の時間に準備をしていると、幼稚園の先生から「準備しているところも見せてほしい。」と連絡があった。後日、普段の様子を先生と園児たちが見に来た。1年生は、準備段階で園児が見に来たことで、ペアの友達にもっと楽しんでほしいという思いを高め、さらに試行錯誤する姿が見られた。年長児は、園に帰ったとき自分たちも作ってみたいという気持ちや小学校への期待、希望が膨らむきっかけとなった。普段の参観や情報交換が教員にとっても発達段階の違いや幼児・児童観、指導観など相互理解を深めることにつながった。



事例②やってみよう手遊び（4月）

活動を15分程度で区切り、合間に手遊びを取り入れた。幼稚園で慣れ親しんだ手遊びや歌、身体活動を取り入れながら学習を進めることで、子どもたちは緊張がほぐれたり安心して活動したりすることができた。また、気持ちの切り替えや学習意欲の高まりにもつながった。



こんな方法も効果的ですよ…

- ・先生同士が気軽に連絡を取り合い、情報を共有することで交流の意味が深くなりました！
- ・手遊びやリズム遊びは、気持ちの切り替えができるので、長期休業後の学校生活や他学年に取り入れることも有効ですよ！

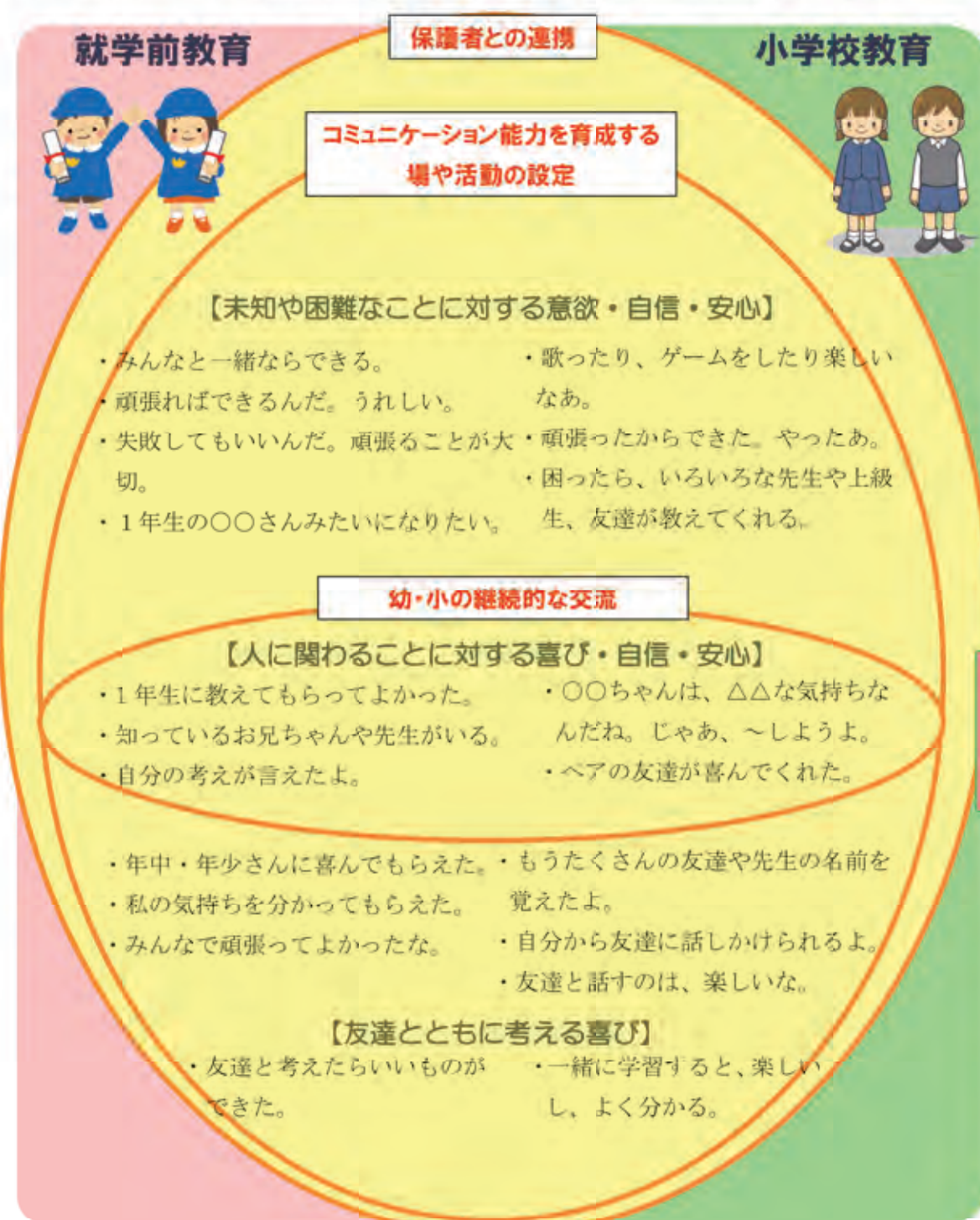
⑤ 接続期の育ちを共に考える

『㊦ あるい心で友達に共感できる子ども』

幼・小で継続的に交流し、コミュニケーション能力を育成する場や活動を重視することによって、人に関わることに對する喜び・安心・自信が育まれ、学校生活において人と主体的に関わりながら、集団の一員として、適切に行動しようとする心の育成につながります。図のように、接続期の『あるい心で友達に共感できる子ども』の育ちが見えます。

あるい心で友達に
共感できる子ども

人と主体的に関わりながら、
集団の一員として適切に行動



接続期の子どもの育ち 林幼稚園・林小学校の取組より

2 家庭における子育ての充実と豊かな親子関係づくりへの支援

家庭や子どもを取り巻く状況やライフスタイルの変化に伴い、子育てへの不安や悩みを抱える保護者がますます多くなっています。また、乳幼児期からのスマートフォン等の使用による生活習慣の乱れや健康への影響、ネット・ゲーム依存など、新たな課題も指摘されるようになっていきます。

各施設・学校では、子育てに関する知識や技術などの専門性や環境を生かし、子どもの生きる力を育むために、家庭や地域、専門機関と連携しながら、子育ての支援を行っていくことが重要です。



(1) 保護者と子どもの育ちを喜び合う

教職員が、子どもの育ちの姿とその意味を丁寧に伝え、共に喜び合うことで、保護者は子育てへの意欲や自信を膨らませていくことができます。保護者が、子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じられるように、教職員の働きかけや環境づくりを工夫していくことが大切です。

(2) 未就園児親子への支援

未就園児同士の交流は、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうなど、子どもにとって大切な体験です。また、保護者にとっても、同じ年齢の子どもをもつ親と触れ合うことで、子育ての楽しさや親としての役割などの認識を深めるよい機会になります。このようなことから、子どもや保護者の交流の場や子育て相談の機会を拡充していくことが望まれます。

Reflection !

保護者と子どもの育ちを喜び合う



みて！こんなしよんで！



ほんまや〜、すごいやん！

- ☐ 写真を掲示するだけで満足していませんか？写真を活かしていますか？→事例①
- ☐ 保育案やクラスだより等は保護者が読みたいと思える内容ですか？
- ☐ 行事等に参加できない保護者に対しての配慮は考えていますか？
- ☐ 夢中になって遊んでいる姿や子どもの育ちを、保護者に伝えてありますか？→事例②
- ☐ クラス懇談は、保護者が参加したくなる『しかけ』を、毎年考えていますか？→事例③
- ☐ 一週間を通して、声を掛けられていないと思っている保護者はいませんか？

事例① みてみて、すごいやろ！こんなことしよんで

写真の掲示では、単なる活動を載せるだけとなり、見ていない保護者がいることに気が付いた。そこで、2歳児クラスでは、着脱などの自分であろうとしている意欲的な姿を掲示し、子どもの成長を感じたり、家庭での関わりにつながったりできるような内容を掲示した。

「ここ、〇〇うつとんで」「〇〇ちゃん、服たたみよるやん！すごい！」など、子ども、保護者、保育者との対話につながり、生活面への意識が高まった。

保護者からの質問が増え、保育の意図や子どもの育ちで大切にしたいことを保護者に伝えやすくなり、成長を喜び合うことへとつながっている。



事例② もう1つ、いるんやけど…

A児とB児が段ボールを使って、お化けを作り、C児も段ボールでお化けの家を作っていた。C児が「もう1つ段ボールがいるんやけど」と訴えたが、A児とB児は、譲ろうとしなかった。

その日の降園時に、保護者に、今日の遊びの様子とC児の思いを伝えると、「あっ、何か言いよったわ、そう言うことだったんや。」と話し、帰っていった。

次の日、C児は母親と一緒に抱えきれないほどの段ボールを保育室まで持ってきた。母親は「こんな大掛かりなお化け屋敷とは思っていなかったわ。すごいな」と、C児のお化け屋敷に対する期待が高まっていることに驚いていた。



事例③ 楽しく話せて良かったわ！

クラス懇談が、輪になって思いを言い合うなどパターン化されていたり、話すことが苦手な保護者にとっては、負担になっていたりする現状があった。そこで、ポストイットを利用し、悩みなど別にグループ分けをした。

「みんな同じ悩みを抱えていることが分かり、安心でき頑張ろうと思えた」「定期的にあると嬉しい」という感想があった。



家庭における子育てのポイント（保護者に伝えていきたいこと）

た のしく元気に遊ぶ（学ぶ）子ども

食 事

○目を合わせて温かい言葉とともに授乳しよう。



○テレビを消して家族と一緒に食べよう。大人がおいしそうに食べて、楽しい雰囲気になろう。



○栽培や収穫、親子クッキングなどの楽しい体験を通して、食への興味・関心を高めよう。

排 泄

○オムツ替えの時には「さっぱりしたね」などの言葉を添えて、心地よさを感じられるようにしよう。

○タイミングをみてトイレに誘い、出たら、ほめよう。
○失敗しながら感覚を覚えていくので、叱らず、着替えさせて、気持ちよさを知らせよう。



○朝の時間にゆとりを持ち、排便できるようにしよう。
○排便後の始末の仕方、使用後のマナーを教えよう。

睡 眠

○眠い時に眠れる環境（暗くて静かな）を整えよう。



○朝、すっきり目覚められるように、21 時頃までには、就寝できるようにしよう。



○睡眠は、心身の疲れを回復させ、脳や体を成長させる大切な働きがあることを知らせよう。
○子どもが早寝早起きを意識できるようにしよう。

清 潔

○「きれいになったね」「気持ちいいね」の言葉を添えて、こまめに着替えさせたり、体を拭いたりして清潔にしよう。

○子どもが歯磨きをした後、仕上げ磨きをしよう。



○手洗い、うがいの習慣が身に付くようにしよう。
○顔を洗う、鼻をかむなど、手伝ったり仕上げをしたりして、きれいになる心地よさを感じられるようにしよう。

着 脱

○着脱しやすい衣服を用意しよう。

○着替えがうまくできないときは、さりげなく手伝って、「自分でできた」喜びや満足感を味わえるようにしよう。

○明日着る衣服を自分で用意できるようにしよう。
○気候や体調に合わせて、衣服の調節をする大切さを知らせよう。



か がやく瞳で遊ぶ（学ぶ）子ども

身近な環境との関わり

○自然の中で遊ぶ体験をさせよう。
・季節を肌で感じ、木々や草花、土、水などの自然物や、身近な虫、動物に触れ、美しさや不思議さに共感しよう。
○子どもと一緒に図書館などの文化施設や、地域の伝統、文化に触れる機会をもとう。
○スマートフォンなどの利用時間をできるだけ少なくして、子どもと一緒に直接体験をする機会を増やそう。



つ よい心と体で遊ぶ（学ぶ）子ども

体づくり

○子どもと一緒に体を動かすことを楽しもう。
○縄跳びや鉄棒など、繰り返しあきらめずに練習している姿をほめよう。



危機回避

○子どもの目線で安全確認しよう。
○危険なことは、はっきりと教え、注意しよう。
○横断歩道の渡り方や道路の歩き方など、一緒に歩いて教えよう。

ま あるい心で遊ぶ（学ぶ）子ども

心の安定



愛着関係

○子どもと愛着関係（安心して信頼できる関係）を築いて、自己肯定感を育もう。

【自己肯定感を育むための、ほめポイント】

- ・過程に注目しよう。できてなくても、やってみたことをほめよう。
 - ・大切なのは、できた時よりも、できなかった時の対応です。失敗から何を学んで、次に生かせるかを一緒に考えよう。
- 子どもの「どうして?」「見て見て!」の呼び掛けに、スマートフォンなどの手を止め、子どもの目を見て応えたり一緒に遊んだりしましょう。

自己肯定感

自分の存在を肯定できる感情



失敗しても大丈夫!!

規範意識

○大人が手本を見せよう。
○自分の物と他人の物との区別や、公共の場でのきまりなどに気付いて、守ろうとする態度を育てよう。
○情報機器等の適切な利用に努めよう。



3 地域社会や関係機関との連携の推進

子どもは保育所・こども園・幼稚園・小学校、家庭、地域社会という場で生活しています。地域は子どもにとって大切なふるさとであり、子どもの活動のよりどころとなる場です。また、地域の人々との交流は、子育ての支えとなる重要なものです。そこで近隣の各施設が相互に連携し、地域の人たちの力を借り、子どもが豊かに育つ環境づくりをしていくことが必要です。

(1) 地域の力を取り入れた保育・教育の充実

子どもは、身近な自然や周囲の人との関わりの中で、自然の美しさや不思議さに気付いたり、コミュニケーション能力などの生きる力の基礎を育んだりしていきます。そこで、各施設や学校内での遊びだけではなく、地域の様々な人との触れ合いや、自然やもの、ことの出合い、様々な行事・伝統文化などを通して子どもの活動体験の機会と場を豊かにするなど、地域の様々な人たちの協力のもとで育っていけるような体制づくりが必要です。



【地域の方から地元の盆踊りを教えていただく】

そのためには、教育・保育課程などに沿いながら、地域人材の活用に努めるとともに、地域の行事を把握して参加するなど、地域との関わりを積極的に求めるようにしましょう。

また、少子化など社会状況の変化により、多くの子どもは、きょうだい間の関わりや家族以外の人との関わりが少なくなり、地域においては、異年齢の子どもが集まって遊ぶ機会が失われている状況があります。高齢者との触れ合いを通じて、おおらかさや優しさを感じたり、暮らしの知恵を学んだり、昔からの遊びを体験したりできます。また、乳幼児と小中学生が一緒に遊ぶ楽しさを感じたりするなどの異年齢交流や、高齢者との世代間交流は、相手を思いやる心や協調性など、人と関わる力を育むものです。

各施設や学校においては、地域の特性に応じて若い世代から高齢者まで幅広い世代と、より効果的な交流を積極的に進めることが望まれます。

このような地域の人や自然、伝統文化に触れ合う豊かな体験を重ねながら、自分の住む地域に親しみを感じたり誇りに思ったりすることにつながるようにすることが大切です。

＜具体的な取り組み＞

- 地域の行事への参加
- ボランティア活動の推進
- 小中学生の体験学習
- 老人会、コミュニティとの交流
- 地域人材(様々な知識や技能の享受)の活用など

地域に出向く（地域の人・もの・自然との関わり）



お散歩大好き！散歩で〇〇をみつけたよ！！

ぼく（わたし）たちのためにいろいろしてくれる人がいてうれしい！
地域の人たちは、ぼく（わたし）のこと、好きなんやな！

【計画について】

- ☐ 子どもの気付きや興味に即したり、その時期を逃さずに経験ができたりするような園所外保育の計画になっていますか？
- ☐ 計画にとらわれすぎず、偶然性・偶発性を楽しむことも意識していますか？

【地域の自然との関わり】

- ☐ その時期ならではの自然と関われる場所を知っていますか？
- ☐ 園所外保育後に学んだことや感じたことがその後の保育に活かされたり、関連させたりしてよりよい学びにつながっていますか？

【地域の人との関わり】

- ☐ 地域の人と出会った際に、教職員が率先して地域の方に笑顔で挨拶をしていますか？
- ☐ 地域の人と子どもが直接関わり触れ合う機会を設けていますか？→事例①
- ☐ 地域の人との交流が、互いにまた一緒に関わりたいと思えるような内容になっていますか？

【地域の施設・伝統・文化との関わり】

- ☐ 教職員が地域の伝統文化や由来について知っていますか？

事例① メダカもらったよ！

6月中旬、Aさん（地域の方）から連絡があり、メダカを頂けることになった。職員が受け取り気付いたら園にメダカがいた・・・というよりも、直接子どもがAさんから頂いたほうが、子どもが地域の方への感謝の気持ちや親しみ、メダカへの興味も高まると考えた。また、あいさつ運動やサツマイモのつるさし等、今までの地域の方との交流の姿を振り返ると、地域の方が来てくださることを子どもたちは楽しみにしており、様々な人と出会うこともよい経験となっている。そこで、保育時間中にAさんと来ていただいて関わる時間を設けるよう計画した。

Aさんよりメダカの飼育方法を教えてもらったり、子どもからメダカに関する質問をする場を設けたりすることができ「エサをやりすぎたら水がすぐに汚れるんだって！」「たまごも産むって言ってた」と子どもの興味・関心も高まっていた。保育室で飼育を始めてから「先生今日もメダカ元気やわ」「下にあるのはウンチかな、きれいにしてあげる？」と、様子をよく気に掛け、大切に育てようとする姿も見られた。





【びかびかデー】

地域の方から掃除の仕方を学ぶとともに、優しく、大切にされている自分のことを感じられる機会になっています。

(2) 地域で支える子育て支援の推進

各施設には「地域の子育て支援センター」としての役割を果たすことが求められています。子育てに不安感を抱く保護者や、相談者がいなく孤立感を抱く保護者に対して適切な助言や情報提供を行い、乳幼児の健やかな育ちを保障するために、様々な子育て支援機関との連携をより一層進めることが大切です。

そのために施設を開放し遊びを提供し、子育ての大切さや楽しさを伝えたり、相談に応じたりするなど、家庭、地域社会との相方向のネットワークづくりに努めましょう。

<子育て相談・情報提供の充実>

- 保育者と地域の人との連携した子育て相談、療育相談の充実
- 各保育所・こども園・幼稚園と福祉機関、保健所、医療機関などの連携による保護者支援の充実
- 保健師などによる巡回相談など、地域の必要とする所に、適宜訪問できるネットワークづくりへの支援



【保健師による巡回相談】

Ⅲ いきいきカリキュラム

【0歳児～小学1年生】

あそびまっクリーズ



	保育所保育指針に示されている 乳児期の子どものねらい及び内容の3つの視点	0 歳児	1 歳児
た 生活に必要な習慣 	健康に伸び伸びと育つ	○保育者の愛情豊かな受容のもとで生理的・心理的欲求を満たし、心地よさを感じる。 ●おなかがすいて、ミルクや離乳食を意欲的に食べるようになる。 ●スプーンを使ったり、手づかみで食べたりしようとする。 ●おむつの交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。 ●睡眠、授乳のリズムを整え、安心して過ごす。 ★一人一人の発育に応じて、生理的欲求を十分に満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・一人一人の生活リズムや発育に合わせて授乳、離乳食をすすめ、様々な食品に親しみ、食事を楽しめるようにする。 ・自分で食べたいという気持ちを大切にしながら、個々の発育に応じてスプーンを使って食べられるようにする。 ・優しく語り掛けながらおむつ交換を行い、清潔になる心地よさを感じられるようにする。 ・一人一人の生理的なリズムや家庭のリズムを尊重しながら、24時間の生活の流れを意識する。 ○伸び伸びと体を動かし、はう、立つ、歩くなどの運動をしようとする。 ●探索活動を通して、様々な運動機能を育てようとする。 ●一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。	○自分でしてみようとする気持ちをもつ。 ●食べることに興味をもち、喜んで食べようとする。 ●スプーンやフォークを使って自分で食べようとする意欲をもつ。 ●便器での排泄に慣れ、タイミングが合えば便器で排泄できるようになる。 ●一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境のもとで十分に午睡をする。 ●簡単な身の回りのことに興味をもち、保育者と一緒にやってみようとする。 ★保育者とともに、ゆったりと食事、排泄、着脱を行いながら自分でしてみようとする意欲を育む。 ・楽しい雰囲気の中で食事をし、よく噛んで食べる習慣が身に付くようにする。 ・食べやすい大きさに切ったり盛り付けたりして、自分で食べようとする姿をしっかりと認める。 ・おむつがぬれていない時は、ゆったりとした気持ちで便器へ誘い、うまく排尿できた時は褒めることなどを繰り返し、便器での排尿に慣れるようにする。 ・入眠時は、心地よく安心して眠れるような関わりを大切にし、落ち着いた雰囲気の中で眠りにつけるようにする。 ・自分でしようとする気持ちを大切にし、必要に応じて言葉掛けや支援を行う。
		★一人一人の発達の状態を的確に把握し、一対一での安定した関わりの中で発達を促すよう、適切な支援をする。 ・保育者の支援に支えられて、自ら体を動かそうとする意欲が育まれるようにする。 ・一人一人の子どもの発達過程を踏まえ、遊びの中で、はう、立つ、歩くなど体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。 ○見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 ●安心できる保育者と一緒に、身近な玩具で遊ぶことを繰り返し楽しむ。 ●興味のある玩具で遊んだり、あやし遊びやふれあい遊びを楽しんだりする。 ●戸外に出かけることを喜ぶ。 ★身の回りのことに興味・関心がもてるよう、見る、聞く、触れるなどの五感を使った遊びを特定の保育者と楽しみ、穏やかな刺激を与えるようにする。 ・目と手の協応が発達していくので、音の出る玩具、追視玩具、触ったり、振ったりしながら遊べる玩具など一人一人の発達にあった環境を整え、驚きや楽しさを十分味わえるようにする。 ・歌に合わせたスキンシップのある遊びなどを楽しむことで、保育者とのやりとりや表現の楽しさを感じられるようにする。 ・散歩に行ったり戸外遊びをしたりする機会を多くもち、自然と触れ合う心地よさを味わえるようにする。	○身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 ●玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。 ●保育者や友達と一緒に、手遊びや触れ合い遊びを楽しむ。 ●身の回りの様々な物を使って、保育者と見立て、つもり遊びを楽しむ。 ●安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐなどの感覚を豊かにする。 ●身近な動植物に触れ合い、親しみをもつ。 ★子どもの発見や感動に共感するとともに、直接的な経験を通して、興味や関心を広げられるようにする。 ・子どもの発達や興味・関心に応じて環境づくりをし、一人一人がじっくり遊び込めるよう、時間と場所を確保する。 ・保育者や友達と一緒に表現することの楽しさを味わえるようにする。 ・必要な玩具や遊具を用意し、イメージを結び付け、自分なりの遊びの世界を豊かに広げられるようにする。 ・戸外で遊んだり、散歩に行ったりして、様々な動植物と親しみをもてるようにする。
		○安心できる関係のもとで、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ●応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安心感をもって過ごす。 ●自分の意思や欲求を体の動きや表情、発声や喃語などで伝えようとする。 ★子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な支援を行うようにする。 ・表情豊かにスキンシップを図りながら一人一人の子どもの欲求や甘えなどを十分に受け入れ、安心して自分の思いが出せるようにする。 ・一人一人の子どもの欲求を、その状況に応じた言葉に置き換えながら丁寧に受け止め、共感してもらう喜びを感じられるようにする。 ・楽しい雰囲気の中での保育者等との関わり合いを大切にし、ゆっくと優しく話し掛けるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにする。	○保育者や友達に興味や関心をもち、関わりをもとうとする。 ●保育者との受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。 ●友達に興味・関心をもち、関わりをもって遊ぼうとする。 ●保育者の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする。 ★保育者と信頼関係を築き、周りの友達への関わりを広げていけるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちを理解し、受け止めていくことにより、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ・一人一人が十分に自己を発揮しながら、様々な場面で友達と多様な関わりをもてるようにする。 ・子どもが言葉で伝えようとする姿を受け止め、応答的に関わることで、思いが伝わる喜びや楽しさを感じられるようにする。
		○自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ●歩行が安定し、探索活動が活発になる。 ●手指の機能が発達し、つまんだり、めくったり指先を使って遊ぶことを楽しむ。 ★一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。 ・探索活動が十分に楽しめるよう安全に配慮し環境を整え、子どもの自発的な活動を見守っていくようにする。 ・子どもの発達過程・意欲・興味に合わせ、一緒に遊びながら、全身を使う遊びを楽しめるようにする。 ・玩具等は子どもの発達状態に応じて適切なものを用意し、遊びを通して手指の機能の発達を促す。	○自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ●歩行が安定し、探索活動が活発になる。 ●手指の機能が発達し、つまんだり、めくったり指先を使って遊ぶことを楽しむ。 ★一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。 ・探索活動が十分に楽しめるよう安全に配慮し環境を整え、子どもの自発的な活動を見守っていくようにする。 ・子どもの発達過程・意欲・興味に合わせ、一緒に遊びながら、全身を使う遊びを楽しめるようにする。 ・玩具等は子どもの発達状態に応じて適切なものを用意し、遊びを通して手指の機能の発達を促す。

	2 歳児	3 歳児
た 生活に必要 な習慣	○自分でしようとする気持ちを受け止めてもらいながら、自分でできたという満足感を味わう。 ●様々な食べ物に興味・関心を持ち、保育者や友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 ●尿意や便意を告げたり、保育者に見守られながら自分で排泄しようとしたりする。 ●保育者の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。 ●身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。 ★自分でできることに喜びを感じられるような言葉掛けや支援をし、個人差を考慮しながら一人でできたことへの喜びや自信がもてるようにする。 ・ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、自分で食べようとする気持ちが育つようにする。 ・一人一人の排尿間隔を知り、自分から排泄できるようにタイミングよく誘ったり見守ったりする。また、自分でできた時には、一緒に喜び、自信や達成感を味わうことを大切にする。 ・一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重する。 ・生活習慣が身に付くように、一人一人ゆっくり繰り返して関わるようにする。	○身の回りのことを自分でしようとする。 ●保育者や友達と一緒に楽しく食事をする中で、食事のマナーが分かり、守ろうとする。 ●尿意を感じたら言葉で知らせ、一人で排泄しようとする。 ●保育者の手助けを受けながら、自分でできること（自分の持ち物の片付けや衣服の着脱や手洗い、鼻をかむなど）は自分でしようとする。 ★一人一人の実情に応じて、生活習慣を身に付けていく過程を大切にし、きめ細やかに関わり、自分でできた満足感を味わえるようにする。 ・十分に体を動かして遊び、空腹感を感じられるようにしたり、保育者や友達と共に楽しく食事ができる雰囲気づくりをしたりする。 ・自分で食べられるようになるので、こぼしてもゆったりと見守り、自分でできた満足感がもてるようにする。 ・排泄については喜びにつながるような声掛けをしたり、手早く着替えの手助けをしたりなどして、自分でやってみようという気持ちが育つようにする。 ・「自分でやってみよう」という気持ちを大切にして、個人差に配慮しながら「自分でできた喜び」や「やってみてよかった」と感じられるよう、認めたり言葉掛けをしたりなど、繰り返し支援をする。
か 身近な環境との関わり	○様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 ●身近な小動物、植物、事象に興味をもち、探索や模倣などをして遊ぶことを楽しむ。 ●玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それらを使った遊びを楽しむ。 ●様々な素材に触れ、伸び伸びと表現することを楽しむ。 ★イメージを膨らませて遊ぶことの楽しさを味わえるようにする。 ・安全面や衛生面に留意しながら、自然に触れ合う機会を十分にもち、保育者が親しみや愛情をもって関わるようにする。 ・自分なりの発想や工夫で楽しむことができるよう、発達に状態に即した形や大きさの玩具や遊具を用意する。 ・様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるように、一人一人の思いを受け止め、イメージを膨らませるようにする。 ・子どもの発見や驚きに共感し、一緒に考えたり試したりして、興味関心を広げていけるようにする。	○身近な環境に興味・関心をもち、自分から関わろうとする。 ●ごっこ遊びなど好きな遊びを保育者や友達と一緒に十分に楽しむ中で、周りの友達への関心を広げる。 ●絵本や紙芝居などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しむ。 ●身近な動植物や自然事象に親しみ興味をもって関わろうとする。 ★保育者が様々な遊びや素材を提供したり、身近な自然と触れ合える環境づくりをしたりする。 ・身の回りのものを何かに見立ててごっこ遊びをしたり、○○になって遊んだりすることを楽しめるように環境構成し、じっくり遊び込める時間と空間を確保する。 ・日々の生活の中で、様々なことを体験しながら満足感を味わえるように、保育者はモデルとなって遊びを進めたり、楽しさに共感したりする。 ・場面や繰り返しの面白さが感じられるような絵本や紙芝居を繰り返し読み聞かせ、楽しめるようにする。 ・水、砂、泥などで、思う存分楽しみ、これらの素材の感触に気付き、驚きや親しみがもてるようにする。 ・散歩に出かけるなどして自然に触れ、においをかいだり、触ったり、美しさを感じたり、また、小動物を飼育する中で、身近な自然に興味を膨らませるようにする。
ま 人との関わり	○身近な人への興味や関心を広げ、保育者や友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ●保育者や周囲の子どもとの安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。 ●生活や遊びの中で、保育者や友達の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。 ●自分の思いや欲求を言葉で伝えようとする。 ★遊びの中で、保育者が仲立ちとなって友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・一人一人の子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な支援を行うようにする。 ・様々な物に見立てられる素材を用意したり、保育者も子どもと一緒に遊びこんだりしながら、子どもが膨らませたイメージに応答的に関わる。 ・子どもの自我の育ちを見守りつつ、友達の気持ちや関わり方に気付いていけるよう支援する。	○自分の思いを出しながら、保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ●語彙が増え、生活や遊びの中で必要な言葉を意欲的に使おうとする。 ●自分なりのイメージをもち、保育者や友達と一緒に簡単なごっこ遊びなどを楽しむ。 ●友達と遊ぶ中で、遊具や用具などを分け合ったり、順番を待ったりすることの大切さに気付く。 ★保育者や友達と遊ぶ中で、安心して自分を出しながら、楽しさやおもしろさを味わえるように共感的に関わる。 ・保育者や友達と一緒に、遊ぶ楽しさや面白さを味わうことを通して、一人一人が安心して思ったことや感じたことを表現したいという気持ちが育つようにする。 ・イメージや感情体験を共有できるよう、自分の経験を保育者や友達に伝える機会をつくる。 ・トラブルになった時は、思いを十分に受け止めて気持ちを安定させたり、仲立ちとなって相手に思いを伝えたりする。 ・ルールや順番など、集団生活の約束事を知らせる際には、視覚的に分かりやすいような配慮を考える。
っ しなやかで健康な体づくり	○生活や遊びの中で、自分から体を動かすことを楽しむ。 ●走る、跳ぶ、登る、降りるなど全身を使う遊びを楽しむ。 ●指先の機能が発達し、つまむ、丸める、めくるなどの手指を使う遊びを楽しむ。 ●音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。 ★自分で体を動かす心地よさを感じ、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。 ・一人一人の興味や関心に沿った環境を構成するとともに、その行動範囲や動線を視野に入れて空間の取り方や区切り方を工夫する。 ・遊びを通して、感覚の発達を促すような玩具や遊具を用意する。 ・保育者も一緒に音楽やリズムに合わせて体を動かすことで、楽しさや充実感を味わえるようにする。	○体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ●保育者や友達と一緒に戸外で体を動かしたり、様々な遊具や用具を使ったりして遊ぶ。 ●遊具の安全な遊び方が分かり、気を付けて遊ぼうとする。 ★個々の発達や生活経験を考慮しながら「やってみたい」と思えるような環境を構成し「楽しかった」という満足感を味わえるようにする。 ・体を動かすことが楽しくなり、何でもやってみたいという気持ちをもつようになるので、様々な運動遊びを楽しめるよう、準備しておく。 ・体を十分に動かすことを楽しみながら、思うように体を動かせる満足感を味わえるようにする。 ・子どもと一緒に行動しながら、遊具の使い方や安全な生活の仕方について具体的に知らせる。 ・安全面、衛生面に関しては、状況に応じて具体的な例を交えながら声を掛け気付けていく。

	4 歳児	5 歳児（～12 月）
た 生活に必要な習慣 	○1日の生活の流れが分かり、必要なことを自分でしようとする。 ●友達と一緒に楽しく食事をしながら、食べ物への興味や関心をもち、食事のマナーを守ろうとする。 ●生活の流れに応じて、食事、排泄、着脱衣などの身辺処理を自分でしようとする。 ●生活や遊びに必要なことを、状況に応じて自分で気付いてしたり、周りの友達の様子を見てしようとしたりする。 ●遊んだ後の遊具や用具などを保育者や友達と一緒に片付けるようとする。 ★自分で考えて動けるように周りの様子に気付かせ、意識や意欲を育み、生活の仕方が身に付くようにする。 ・友達と一緒に食事を楽しみながら、箸の正しい使い方を知らせたり支援したりして、食事のマナーや態度などを知らせる。 ・子どもが自分でできないところを支援しながら、次第に自分で排便後の後始末などの身辺処理ができるようにする。 ・必要感をもって、自分のことが自分でできるという自信や満足感を味わえるように支援する。 ・時間の流れや場の使い方が自分で分かり、自発的に行動していけるような環境を整える。 ・保育者と一緒に片付けや整頓をしながら、きれいになったことの心地よさを共感するように言葉掛けをする。	○生活の仕方を身に付け、自分の身の回りのことを進んで行い、見通しをもって生活を進めていこうとする。 ●食べ物と体の関係に興味や関心をもち、進んで様々なものを食べようとする。 ●生活に必要なことを自分なりに考えながら、友達と一緒に主体的に生活を進める。 ★1日の生活の流れに見通しがもてるように環境を整えたり、自分たちで生活や遊びを進めていこうとしたりする姿を十分に認める。 ・友達や保育者と一緒に栽培や収穫、クッキングなどを通して、身近な食品への興味や関心が高まるような活動を計画的に取り入れる。 ・1日の生活の流れや長期的な見通しをもって動けるように、スケジュールや活動内容などを表示し、伝える。 ・友達と一緒に生活を展開することができるような環境を整えたり、集団の中で生活する楽しさや充実感を味わえるような支援をしたりする。 ・様々な人（いろいろなクラスの友達や保護者、地域の方など）と挨拶を交わす気持ちよさが感じられるように、園（所）内外で出会った際には、保育者がモデルとなり挨拶をする。また、保護者にも啓発する。
か 身近な環境との関わり 	○身近な環境に自分から関わり、様々なことを感じ、発見したり、考えたりする。 ●日々の生活の中で、自然などの身近な事象に主体的に関わって遊ぶ。 ●身近な環境を遊びに取り入れたり、数量、図形などに興味・関心をもったりする。 ●身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れて、友達や保育者とともにイメージを膨らませて遊ぶ。 ●感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で自由に表現することを楽しむ。 ●様々な素材に慣れて、自分なりの使い方を楽しむ。 ★施設内外の身近な環境に触れる機会を提供し、興味・関心をもって遊びの中に取り入れていけるよう支援する。 ・施設内外の自然に触れ、季節感を感じられる環境を工夫し、直接体験を大切にして、大きさ、美しさ、不思議さなど、様々な感情体験がもてるような関わりをする。 ・また、様々な教材を有効に利用しながら、生活や遊びの中で数量・図形などに触れる機会をつくり、興味を引き出すようにする。 ・生活の様々な場面の中で、自然や社会の事象に対する好奇心や探究心を満たすようにする。 ・役割を意識して友達とともにごっこ遊びを楽しむようになるので、イメージを共有しやすいものや場の設定を子どもとともにに行い、イメージをつなげられるような支援をする。 ・身近な素材を使って繰り返し遊ぶ中で、素材の性質を理解したり、工夫したりすることを大切にする。 ・様々な素材や用具をいつでも使えるよう準備し、子どものイメージが膨らむように環境を整える。	○意欲や好奇心、探究心をもって身近な環境に関わり、様々なことに気付き、考えたり、発見したりしたことを、生活や遊びに取り入れていこうとする。 ●身近にある数量や文字などに関心をもち、それを使う楽しさを味わう。 ●友達と共に、考えたり、試したり、工夫したりしたことを表現して遊ぶ。 ●身近な動植物に親しみ、世話をしたり、大切にしたりして生命の尊さに気付く。 ●身近な乗り物や公共施設に興味や関心をもち、公共の場でのルールやマナーを知る。 ★子どもが心と体を働かせて物とじっくり関わったり、互いの考えに触れたりする環境を意図的、計画的に構成する。また、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つように支援する。 ・生活や遊びの中で数を数えたり、文字を書いたりなどの経験ができる環境や場を構成し、楽しみながら数量や文字に興味や関心を広げる。 ・互いの思いや考えに気付き、自分たちで遊びを進めていけるように、子どもたち同士で考えたり相談したりできる状況をつくったり、それぞれの活動が互いに関連し合って展開できるよう、目的が共有しやすいような環境を工夫する。 ・直接的な体験を通して、自然や社会の事象に対する好奇心や探究心を満たせるよう、調べたり試したりできるような環境を工夫する。 ・飼育栽培を通して動植物の生態に興味や関心をもち、生命がもつ不思議さや尊さに気付かせる。また、自分たちの生活との関わりに目を向け、感謝やいたわりの気持ちが育つように支援する。 ・園（所）外活動を計画的に取り入れ、子どもの生活の場が広がるようにする。また、交通ルールや公共の場でのマナーを守ることの必要感を感じられるよう、話をしたり紙芝居などを活用したりする。 ・興味をもったことや疑問に思った事を絵本や図鑑などで調べることができるよう環境構成をする。また、保護者には家庭での絵本に触れる機会を大切にしてもらうように呼び掛ける。
ま 人との関わり 	○気の合う友達とイメージを重ねながら遊ぶ楽しさを味わう。 ●思ったことや感じたことを、自分なりの言葉や行動で友達や保育者に伝えたとともに、相手の思いにも気付くようになる。 ●友達と楽しく遊ぶ中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ★友達と多様な関わりがもてるようにするとともに、一人一人が十分に自己発揮できるよう支援する。 ・生活や遊びの中で、自分と相手の思いやイメージがそれぞれあることに気付くような機会をつくる。また、保育者と一緒に考えたり互いの思いを受け入れたりしながら、心を通わせる心地よさを味わえるようにする。 ・生活や遊びに必要な言葉やきまりの必要性を理解し、守ろうとする気持ちがもてるような支援をする。	○友達と協力して、役割を分担しながら取り組んだり、やり遂げたりする充実感を味わう。 ●相手の話をよく聞き、自分の意見や気持ちを相手に分かるように話しながら、一緒に生活を進めていこうとする。 ●友達と共通の目的を見出し、協力したり協調したりする態度を身に付ける。 ★一人一人のよさを仲間と認め合い、互いに尊重する気持ちを高めていけるように配慮する。 ・自分や友達のよさに気付き、互いに認め合いながら、友達と話し合って活動を決めたり、見通しをもって生活を進めたりできるような状況づくりをする。 ・友達と力を合わせ試行錯誤しながら一緒に活動する楽しさや共通の目的が実現する喜びが味わえるように、友達との関わりが生まれやすい環境を整えたり、子ども同士をつなぐ支援を行ったりする。
つ しなやかで健康的な体づくり 	○喜んで運動遊びをしたり、友達と一緒に遊んだりする楽しさを味わう。 ●友達と一緒に体を動かす遊びの楽しさを感じ、自ら繰り返しやってみようとする。 ●友達や保育者と戸外で体を十分に動かすことの心地よさを味わう。 ●友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しんだり、遊びのおもしろさを感じたりして、自ら繰り返しやってみようとする。 ●物や場所の安全な使い方が分かり、気を付けて遊ぼうとする。 ★伸び伸びと自分のやりたいことに向かって取り組めるよう、子どもの興味・関心にそった遊びや活動を用意したり、体を動かす心地よさが味わえるように支援したりする。 ・「やってみよう」「できた」という意欲や充実感を十分に認め、一人一人の取り組みや個々の頑張る姿を励ますとともに、周りの子どもの意欲にもつながるような働き掛けをする。 ・いろいろな動きを組み合わせる遊ぶことを楽しむようになるので、平均台や巧技台など、様々な運動遊具や用具を用意し、楽しめる環境を作る。 ・集団遊びを取り入れ、みんなで遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 ・好奇心が広がり、危険への判断が難しくなるので、状況に応じて声を掛け気付けさせる。	○体を十分に動かす楽しさを味わいながら、自分なりの目的に向かって取り組み、やり遂げようとする。 ●繰り返し取り組む中で、できるようになった喜びや達成感を味わう。 ●自分なりのめあてをもち、挑戦しようとする。 ●友達と一緒に体を動かして、集団遊びやルールのある遊びを楽しむ。 ●危険な遊び方や危険な場所、状況などに気付き、安全な行動が取れるようになる。 ★子どもの挑戦しようとする気持ちや過程を大切にし、自分なりの満足感や達成感を感じることができるよう、必要に応じて適切な支援をする。 ・繰り返し挑戦しながら、目標に向かってやり遂げようとする気持ちを大切にし、保育者や友達と教え合ったり励まし合ったりして認められることで、できた喜びをともに味わい、自信につなげる。 ・自分たちで考えた作戦やルールに添って遊ぶ中で、友達と気持ちを合わせ自分の動きを調整して遊ぶ経験が十分できるようにする。 ・活動に見通しをもつようになってくるので、子どもと一緒に安全について考えながら、その場に応じた行動を取れるようにする。

	5 歳児（1 月～接続前期）	1 年生（～7 月接続後期）
た 生活に必要な習慣	○就学への期待をもって、自分たちで生活を進めていこうとする。 ●生活に必要なことの意味を理解し、進んで行おうとする。 ●自分の健康に関心をもち、病気の予防に必要な活動を進んで行おうとする。 ●1 日や 1 週間など短期間の生活に見通しをもち、自分で考えて行動する。 ●自分の成長を実感し、就学への期待感をもつ。 ★一人一人が自立した生活を送れるように見守りながら、状況に応じた働き掛けをする。 ・自分の健康に関心をもち、気付いて手洗い、うがいや衣服の調節など、進んで行えるような環境構成の工夫や声掛けを行う。 ・生活の流れや時間を意識して行動できるように見守り、環境を工夫する。 ・生活や遊びの中で、集中して話を聞く姿勢が身に付くような環境を工夫する。 ・活動内容の調和を図りながら、めりはりのある生活を送れるような 1 日の流れに配慮する。 健康な心と体 自立心	○新しい環境の中での基本的な生活習慣を身に付ける。 ●登下校の仕方、学校での一日の過ごし方のルールを知り、時間を意識しながら安全に生活する。 ●学習の準備や持ち物の整理の仕方を知り、自分で学習の用意や片付けをする。 ●気持ちのよいあいさつ、返事、言葉遣いをする。 ●給食の準備や片付けの仕方が分かり、マナーを守って友達と一緒に楽しく食べる。 ●家庭での望ましい過ごし方を知り、規則正しい生活を送る。 ★基本的な生活習慣や学習態度を身に付け、安心して生活することができるように、その意味を一緒に考えながら分かりやすく説明する。 ・見通しをもって児童が過ごせるように、一日の流れが分かるよう掲示物を工夫する。 ・望ましい行動が自分で行えるよう、校内探検や下校と一緒にしながら学校生活のルールに触れ、自分の行動を考えられるようにする。 ・学習の準備や整理の仕方の図を示したり一緒に行ったりして、自分で学習の用意や片付けができるように支援する。 ・登校前の食事や身支度、下校後の荷物の片付けや宿題、明日の用意など時間を意識して毎日自分で行えるように、学校の様子を発信しながら家庭と連携し、支援する。 各小学校による具体的な特別活動等の場において行う。 ・朝の会、帰りの会 ・清掃、給食指導 ・学級活動（1 5 分間程度の区切り） ・授業の号令や発表における指導 ・連絡帳や家庭に持ち帰る手紙の活用 等
か 身近な環境との関わり	○就学への期待をもって、意欲的に生活や遊びを進めていこうとする。 ●身近にある数量や図形、標識や文字などに対する関心を深め、生活や遊びに取り入れていく。 ●感じたこと、想像したことなどを様々な方法で表現して楽しむ。 ●身近な自然の性質やおもしろさなどを感じたり、関心をもったりする。 ●小学校へ出かけて行き、様々な体験をすることで、学校を身近に感じる。 ★自己表現する姿を十分に認め、自分の成長を実感できるような機会をつくり、自信につなげていく。 ・数量や文字などに多く触れられるような機会を設け、必要感をもって生活や遊びに取り入れていき、数量や図形、文字などに関心を深めていく。 ・直接的な体験を通して、冬の自然や春への季節の変化を感じるなど、自然事象に対する好奇心や探究心が満たされるような環境を工夫する。 ・小学校との交流の機会を設け、一緒に活動するなかで、就学への期待感を膨らませていく。 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 自然との関わり・生命尊重 豊かな感性と表現 思考力の芽生え	○身近な社会及び自然に意欲的に関わり、安心して自己を発揮したり、生活上必要な習慣や技能を身に付けたりしながら自立への基礎を養う。 ●身近な環境（学校の施設や通学路）に積極的に関わり、ルールやマナーを守って楽しく安心で安全な生活をする。 ●身近な自然、季節に積極的に関わり、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとする。 ●動物の飼育や植物の栽培に積極的に関わり、生き物への親しみをもって大切にしようとする。 ●言語感覚や数・量・形の感覚を養う。 ★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮し、好奇心や探究心を大切にして、積極的に身近な生活に関わることもできるような指導の工夫や指導計画の作成を行う。 ・学校生活や通学路のルールやマナーが身に付けられるように、幼稚園や保育園、家庭などとの連携や全校的な協力体制をとれるようにする。 ・身近な自然と繰り返し関わるように、地域の公園で活動したり、学校で動植物と触れ合ったりする場を年間を通して継続的に設ける。 ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行い、発達の特性を生かした具体的な活動や体験を取り入れる。 各小学校による生活科等の学習で具体的な活動を行う。 ・がっこう だいすき（教室・校庭・体育館等） ・きれいに さいてね ・なつが やってきた 等
ま 人との関わり	○友達と共通の目標をもち、生活や遊びを一緒に進める楽しさを味わう。 ●生活の中で互いのよさや持ち味に気付くようになり、気持ちを合わせて一緒に活動を進めていこうとする。 ●友達と共通の目的を見出し、力を合わせたり、役割やルールを決めたりしながら遊びを発展させる。 ●今まで一緒に遊んだ友達や、お世話になった人たちに感謝の気持ちをもつ。 ★生活の中で、友達と共通の願いや目的をもって工夫したり、協力したりする充実感を味わえるように支援する。 ・生活や遊びの中で、子どもたちに任せていく機会をつくり、子どもたちがやり遂げていく過程を大切に見守りながら、必要に応じて支援する。 ・友達との関わりの中で、自分の気持ちを調整し、互いに認め合うことで、生活がより豊かになっていく体験を重ねていけるように関わる。 ・友達との関わりの中で、自分の気持ちを調整し、折り合いをつけたり、互いに認め合ったりするなかで、より楽しく遊べるように関わる。 ・自分たちが、周りの人に支えられていることを感じられる実体験を積み重ね、感謝の気持ちを伝える場や機会を設ける。 協同性 言葉による伝え合い 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり	○身近な人々（学校で働く人、友達、上級生、家族、地域の人々等）に意欲的に関わり、安心して自己を発揮したり、生活上必要な習慣や技能を身に付けたりしながら自立への基礎を養う。 ●自分の思いや願いをもって接する。（「自分のことを知ってもらいたい」 ●身近な人々に親しむ。 「友達をいっぱい作りたい」等） ●自分のよさや友達のよさを認め合って、協力して行動する。 ●自分にできることを見つけ、役割を果たす。 ★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮し、一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことができるような指導の工夫や指導計画の作成を行う。 ・幼児期における遊びを通した総合的な学びから自覚的な学びに円滑に移行できるように、指導要領や入学前の聞き取りを活用して個々の実態を把握する。 ・友達の輪を広げていけるように SST やグループエンカウンターを活用する等、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくる。 ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行い、発達の特性を生かした具体的な活動や体験を取り入れる。 各小学校による生活科等の学習で具体的な活動を行う。 ・クラスの新しい友達との交流（SST・グループエンカウンター） ・学校の先生方との交流（学校探検・インタビュー・お礼） ・就学前の友達との交流 ・ペア学年との交流 等
つ しなやかで健康な体づくり	○ルールのある遊びや集団遊びを通して、体を思い切り動かし、遊ぶ楽しさを味わう。 ●友達と一緒に体を十分に動かして、ルールのある遊びや集団遊びを楽しむ。 ●友達と教え合ったり、励まし合ったりしながら、目標や課題に向かって挑戦する。 ●冬の自然事象に触れながら、戸外での遊びを楽しむ。 ★一人一人が意欲的に取り組めるよう支援し、グループやチームの意識を高めたり、競い合う楽しさを味わえるようにしたりする。 ・ドッジボールやサッカー、鬼遊び（集団遊び）など、体を思い切り使って遊ぶなかで、遊びのルールをアイデアを出し合いながら、自分たちで決めたり、確認したり、場を設けていく。 ・繰り返し挑戦しながら、目標に向かってやり遂げようとする気持ちを大切にし、できた喜びをともに味わい自信につなげていく。 ・季節感を味わいながら、戸外で体を動かして遊ぶ活動を多く取り入れていく。 自立心 ＊各就学前教育施設と小学校でアプローチ・スタートカリキュラムを作成し、協議しよう！ 32 P 参照	○進んで運動遊びの楽しさに触れ、きまりを守って誰とでも仲良く運動をすることを通して、意欲的に運動する態度を養う。 ●体づくりの運動遊び（体ほぐし・多様な動きをつくる） ●器械・器具を使つての運動遊び（固定施設・マット・鉄棒・跳び箱） ●走・跳の運動遊び（走・跳） ●水遊び（水の中を移動する・もぐる・浮く） ●ゲーム（ボールゲーム・鬼遊び） ●表現リズム遊び（表現・リズム） ★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮し、生活科を中心とした合科的関連的な指導や弾力的な時間割設定を行う。 ・一人一人が新しい環境に慣れるような配慮をしながら、個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導を工夫する。 ・運動の楽しさや喜びを実感できるような活動を行う等、運動を苦手と感じている児童や意欲的に取り組むことが難しい児童への指導を工夫する。 ・運動を通じて体の基本的な動きや基礎となる動きを身に付けられるよう、一部の領域の指導に偏ることのないように時間を配分する。 各小学校による体育科の具体的な学習内容を各種行事等で行う。 ・運動会 ・クラスマッチ ・朝の活動を利用した運動 ・授業 ・休み時間の外遊び 等

	1年生（8月～）
た 生活に必要な習慣 	○規則正しい生活習慣や望ましい学習態度を身に付けて安全に学校生活を送ろうとする。 ●登下校の仕方、学校での過ごし方のルールを確認し、時間を守って安全に生活する。 ●学習や身の回りの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け、節度ある生活をする。 ●生活リズムを整え、家庭での自主的な学習習慣を身に付ける。 ●赤・緑・黄の栄養や地域の食材について知ることを通して、食に興味をもって感謝して食べる。 ★自分のことは自分でできるように、児童の成長を見守り称賛し、支援する。 ・安全に生活するために気を付けることを話し合う時間を設ける等、自分の生活を振り返ることができるようにする。 ・「早寝早起き朝ごはん」の取り組みや「ノーメディアデー」、「生活チェック表」などを活用して生活リズムが定着するように、学校からの情報も発信しながら家庭と連携する。 ・学習や給食、掃除、整理整頓について継続して意識できるように掲示物を振り返る時間を設けたり称賛したりして、実践することのよさを感じることができるようにする。 ・食への興味を高めるために、栄養教諭と協力し、3つの食品群の栄養や地域の食材について分かりやすく伝える場を設ける。 各小学校による具体的な特別活動等の場において行う。 ・朝の会、帰りの会 ・日常生活指導 ・連絡帳や手紙の活用 等
か 身近な環境との関わり 	○身近な社会や自然に意欲的に関わり、自信をもって自己を発揮したり、生活上必要な習慣や技能を身に付けたりしながら、自立への基礎を養う。 ●身近な環境（学校や地域）に積極的に関わり、集団や社会の一員として安全で適切に行動する。 ●家庭での自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりする。 ●身近な自然、季節や地域の行事に積極的に関わり、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとする。 ●身近な自然や物に関わり、自分たちの生活や遊びを工夫する。 ●自分自身の生活や成長を振り返り、これからの願いをもって意欲的に生活する。 ●言語感覚や数・量・形の感覚を養い、理解を深める。 ★主体的・対話的で深い学びの実現を図り、身近な環境と繰り返し関わることを通して、意欲と自信をもって生活できるようにする。 ・集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方を考えて行動できるように、公共物や公共施設と関わる体験をし、適切な利用の仕方やすまりの大切さを考える場を設ける。 ・身近な自然や物から遊びを工夫してつくる活動は、思いや願いを生かした多様な遊びを行う。また、その面白さ不思議さに気付き、体験を通して気付いたことを言葉・絵・動作などで表現し、それらを伝え合い交流する機会を設定する。 ・自分の成長への気付きは、年間を見通した計画的な学習活動を構想し、あらゆる場面において児童の成長を捉え、タイミングを逃さず、認めたり励ましたりする。 ・具体物の用い方などの工夫や子どもと一緒に具体物を使う場を設けることで、数量への理解や、進んで書こうという意欲を育てるようにする。 各小学校による生活科等の学習で具体的な活動を行う。 ・いきものと なかよし ・たのしい あきいっぱい ・じぶんで できるよ ・ふゆを たのしもう 等
ま 人との関わり 	○身近な人々（学校で働く人、友達、上級生、家族、地域の人々）に意欲的に関わり、自信をもって自己を発揮したり、生活上必要な習慣や技能を身に付けたりしながら、自立への基礎を養う。 ●自分の思いや願いをもって接する。（「もっと～したい。」「なぜだろう。」等） ●相手の様子や状況を考えて接する。 ●身近な人々に親しみ、大切にすること。 ●自分のよさや友達のよさを認め合って、協力して行動する。 ★主体的・対話的で深い学びの実現を図り、人と関わることを通して、意欲と自信をもって生活できるようにする。 ・児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させ、多様な学習活動から気付いたことを基に考える事ができるようにする。 ・児童の生活圏に存在する様々な身近な人々を学習の対象として扱う等、自分との関わりに気付いたり愛着をもったりできるようにする。 ・交流への児童の意識が途切れることなく意欲的な学習となるように、単元計画の中に継続的に関わることでできる対象を設定する。 各小学校による生活科等の学習で具体的な活動を行う。 ・クラスの友達との学び合い ・就学前の友達との交流 ・高齢者の方との昔遊び交流 ・ペア学年との交流 ・入学前の体験交流会 等
つ しなやかで健康な体づくり 	○各種の運動遊びに進んで取り組み、その行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝えながら意欲的に運動する態度を養う。 ●体つくりの運動遊び（体ほぐし・多様な動きをつくる） ●器械・器具を使つての運動遊び（固定施設・マット・鉄棒・跳び箱） ●走・跳の運動遊び（走・跳） ●ゲーム（ボールゲーム・鬼遊び） ●表現リズム遊び（表現・リズム） ★主体的・対話的で深い学びの実現を図り、運動の楽しさや喜びを味わったり健康の大切さを実感したりできるようにする。 ・運動する場所や器械・器具の安全に気を付けることができるよう、使い方や使うときのルールを主体的に考える場を設ける。 ・運動遊びの工夫を考えて友達に伝えたり、協力して仲よく勝敗を競うことができるようなゲームの中で、練習や作戦について話し合ったりする場を取り入れる。 ・元気に運動することは体を丈夫にして健康によいというように、運動と健康の関わりについて考えをもてるようにする。 各小学校による体育科の具体的な学習内容を各種行事等で行う。 ・クラスマッチ ・朝の活動 ・授業 等

IV 資料



幼保連携型認定こども園としての配慮

(1) こども園の一日の生活の流れと工夫・配慮

	3号認定子ども りすチーム🦊	2号認定子ども ぱんだチーム🐼	1号認定子ども くまチーム🐻	
	0・1・2歳児	3・4・5歳児（1・2号混合クラス）		
7:30	順次登園	順次登園		なかよしタイム 個々の体調に留意し、ゆ ったりと過ごす中で、 個々の遊びや異年齢児と の関わり等を楽しむ。
8:30	自らの思いに 添った活動		順次登園	
9:00				
9:30	おやつ	自らの思いに添った活動		かがやきタイム 1号・2号認定子どもが共 通カリキュラムによる意 図的かつ計画的な教育・ 保育の中で経験や活動を 積み重ね、幼児期にふさ わしい集団生活を展開す る。
	クラス活動	クラス活動《各クラス・合同で》		
11:00	食事準備	食事準備・食事		
11:30	食 事 片付け			
12:00	午睡準備	片付け		
12:30	午睡	みんなで集まってるのひととき		
13:00		午睡準備 午睡	自らの思いに添った活動 帰りのひととき	
14:00			降園（14:00～15:00頃）	
14:30		園庭開放		すこやかタイム 安心できる環境の中でゆ ったりとした時間を過ご し、個々の興味に添って、 遊びを広げたり深めたり する。
15:00	おやつ 自らの思いに添った活動 帰りのひととき		※降園時間は各園で異なっている	
16:30	順次降園			ぬくもりタイム 家庭的な雰囲気の中で、 保育者の受容的な関わり に配慮しながら個々の遊 びや異年齢での関わりを 楽しむ。
18:30				
19:00				

教育・保育の充実 : 養護の行き届いた環境のもと、＜なかよしタイム＞＜かがやきタイム＞

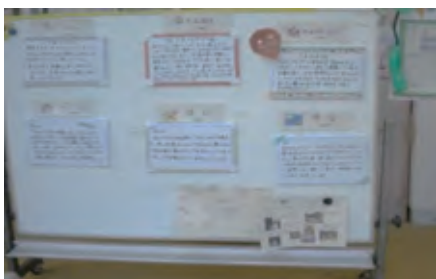
＜すこやかタイム＞＜ぬくもりタイム＞の時間帯に分けて、その時間帯の特徴を生かした教育・保育を展開する。

- ・ 1号認定子ども(くまチーム:以下1号児)と2号認定子ども(ぱんだチーム:以下2号児)の、午後からの生活の違いに対しクラス担任を複数配置し、それぞれに担任が各1名ずつ分かれて、きめ細やかに子どもの思いを受け止め丁寧に関わるができるようにする。
- ・ 今日の遊びや生活について各クラスで話し合ったり、明日の活動を楽しみにしたりできるよう、各クラスで集まってるのひとときを設ける。生活時間に区切りを付けることで、午後からのそれぞれの生活の流れに、スムーズに移行できるよう配慮する。

(2) 混合クラスの生活における配慮点など

保護者や地域の方に分かりやすい工夫が大切！

○ 保護者へのお知らせや掲示についての配慮 ○



棟や入口が2つに分かれている園では、掲示物を2枚ずつ作り、2か所に貼る。

保護者へのお知らせや、子どもたちの今日のエピソードなどについては、くまチームは降園時に直接保護者へ伝える。また、ぱんだチームは、トピックスボードで知らせるとともに随時、迎えにくる保護者に話をする。

○ 分かりやすい職員名札 ○



大きめサイズ、フェルトで作成、見えやすい位置に付ける。

○ 分かりやすい職員配置 ○



クラスカラーは名札と合わせて、分かりやすい場所に掲示。

○ リーダー会の内容を伝える ○

記録用紙（例）

月	週（参加者：	）	月	日（ ）	場所	時間	～
	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）	その他	
行事							
そう							
きりん							
りす							
うさぎ							
ひよばん							

協議内容や決定事項、次回の協議内容、提出期限など

行事、クラスの保育内容、その他周知事項

【裏面】クラス、子ども・保護者の様子
その他 具体的な共通理解事項

会議内容の表記の工夫により、必要な情報がわかりやすく、短時間でも確認や情報共有がしやすくなった。各自で確認することの意識強化にもつながっている。

各学年団の代表者の共通理解は確実に！

週案様式（例）

○ 週案で担任の連携を図る ○

先週の子どもの姿	週のねらい・内容				
生活習慣	家庭連携・子育て支援				
絵本	歌・体操など				
日（曜）	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）
行事・連絡準備					
団職員（ABCD）の動き					
子どもの活動					
環境構成と援助					

代表者会や団会等も記入

□今週しておきたいことを記入しチェック

団の職員一人一人の早出、本番、年休、事務時間、くまチーム・ぱんだチーム対応など

団職員の共通理解は不可欠！お互いの動きも知っておこう!!

(3) なかよしタイム(～8:30)の工夫など

・なかよしの部屋 (1 階 1 部屋で 0 歳児～5 歳児全員で過ごす。)

◎早出例 総数 46 名 (0.1.2 歳児 14 名 3.4.5 歳児 32 名) の場合

=なかよしタイムの流れ=

7:30～ 2・3 号児が各家庭の必要保育時間に登園してくる。

登園した子どもから好きな遊びを見付け遊ぶ。

★0 歳児・1 歳児 (ハイハイ・よちよち歩きの子)

- ・危険の無いサークル内でゆったり遊ぶ

＝工夫点＝

サークル内に座ったり寝転んだりして、ゆったり過ごせる環境を作り、発達に合った玩具を用意する。



★1 歳児～5 歳児

- ・思い思いに好きな遊びを見付け、異年齢児と一緒に遊ぶ

＝工夫点＝

落ち着いた雰囲気の中で、異年齢児と遊びを見付けて遊べるよう、いろいろなコーナーを整えるなど、それぞれが楽しめるように環境作りをする。



8:15～ 片付けをして、お話タイム

8:30～ 0・1・2 歳児から各保育室へ移動する。3・4・5 歳児も保育室へ帰り朝の準備をする。

=職員の役割分担と職員・子どもの流れ=

職員体制・・・1 番早出 1 人、2 番早出パート 1 人、3 番早出 1 人

- ・1 番早出が全体保育と保護者対応をする。2 番早出が 0 歳児～1 歳児の保育をする。
- ・7 時 30 分登園してきた子どもから、好きな遊びを見付け楽しく過ごす。
- ・8 時 15 分になると 3 番早出の職員が来る。片付けをし、お話タイムをする。
- ・その間、1 番早出は各クラス担任に伝達事項を伝える。その後 0・1・2 歳児から各保育室に向かう。(4・5 歳児が 1・2 歳児の子どもと手をつなぎ、2 階保育室まで連れていく姿が見られる。)

※こども園主任を中心に、子どもの様子を見ながら月 1 回環境の見直しを行う。



(4) かがやきタイムからすこやかタイムへの工夫

「楽しかったね！また明日ね！」のひととき

～共に一日を振り返り、明日の活動への期待へつなげるひとときにするために～

異年齢児（3・4・5歳児）合同で過ごすひととき

	子どもの姿（活動の流れ）	保育者の関わりのポイント
12：20	○降園や午睡の準備をする 	ポイント① スムーズに準備ができるように 荷物の片付けの場所、パジャマに着替える場所など動線を分け、互いにスムーズに準備できるようにする。 
12：30	○絵本や紙芝居を読む  ○今日の活動を振り返る ○明日の活動について話を聞く	ポイント② ゆったりとした雰囲気 お話の世界をみんなで楽しみ、次の活動に移る前に、心も体も落ち着けられるよう、ゆったりとした雰囲気を大事にする。 ポイント③ 思いの共有・明日への期待へ みんなで振り返り、互いに思いを共有することで、一日の楽しさを実感できるようにする。 また、明日への見通しをもったり、活動への期待につなげたりし、明日も一緒に遊びたいなあという気持ちが膨らむようにする。
12：45	○あいさつをして部屋を移動する 	ポイント④ 楽しい気持ちのまま次の活動に あいさつをすることで一つの区切りとなり、互いの生活スタイルの違いを違和感なく受け止められるようにする。 友達とタッチなどをして触れ合うことで、友達への親しみを感じ、互いに楽しい気持ちのまま次の活動へ移れるようにする。 ☆☆こんな方法も！！☆☆ 少人数なら、あいさつをする時、一人一人の名前を呼び合うこともできます。呼び合い方も、年齢に合わせたりや触れ合い方の工夫につなげられそうです。
12：50	○分かれて過ごす ・くまチーム：3・4・5歳児合同で思いに添って遊ぶ ・ぱんだチーム：午睡	ポイント⑤ 思いに添った遊びの充実 1週間を通して同じ保育者が保育を担当する。異年齢児との関わりの中で、思いに添った遊びが充実したものになるようにする。 その様子を職員間で共通理解し、遊びの継続や展開につなげる。 
14：00	○降園（くまチーム）	ポイント⑥ 保護者対応・職員連携 降園時に保護者へ子どもの姿や周知事項を伝えるため、職員間で伝達し合い共通理解しておく。

エピソード

「くまチームの園庭開放より～」

くまチームは、迎え後の園庭遊びを楽しんでいます。けれど、午睡が終わったぱんだチームが起きてきて再会すると、さっき「さようなら、また明日ね」とお別れしたけれど、お互いに「またね」と声をかけ合う姿が見られたり、くまチームさんが親子で帰っていく姿にぱんだチームさんは寂しい気持ちになったりすること・・・。

互いの生活リズムを大切にしたい、子どもの思いも大事にしていきたい・・・そのことを保護者の方も感じてくださり、園庭開放はぱんだチームが起きる前までね！という約束が親子で自然にできている。

クラスごとに過ごすひととき

○子どもの姿(活動の流れ)・保育者の関わりや思い

(3歳児)	(4歳児)	(5歳児)
12:00 頃 ○午睡・降園の準備をする。 ・一日の生活の見通しがもてるよう個別の関わりを大切にしながら見守ったり、声を掛けたりする。 ○手遊びやクイズ、触れ合い遊びなどをする。 ○今日の活動を振り返る。 ・輪になって座り楽しい雰囲気の中、友達と触れ合い遊びを取り入れ、友達への親しみを深めていけるようにする。 ・今日の活動について子どもたちと振り返りながら楽しかったことを共有する。 ○友達や保育者とタッチして帰りのあいさつを交わす。 ・友達同士で顔を見合わせあいさつをしたり保育者や友達とタッチしたりすることで、次の活動へ楽しい気持ちで向かえるようにする。 ・互いの生活に不安感などを感ぜないように安心して移行できるように配慮する。 12:30 頃 ○午睡をする。(2号児) 思いに添って遊ぶ。(1号児) 担任が必ず子どもに関われるように動静を工夫する。	12:10 頃 ○午睡・降園の準備をする。 ・給食後、午睡・降園の準備に時差があるため、手遊びやクイズなどをしながら楽しい雰囲気の中で皆が揃うのを待つようにする。 ○絵本を見る。 ・子どもたちの興味・関心に合わせて絵本を選び、ゆったりとした雰囲気の中、クラスの皆で絵本の世界を楽しめるようにする。 ○今日の活動を振り返る。 ・一日の振り返り、一人一人自分の思いを言葉で話し友達に聞いてもらえるうれしさを味わえるよう、時間の確保をする。  12:45 頃 ○午睡をする。(2号児) 思いに添って遊ぶ。(1号児)	12:15 頃 ○当番活動をする。 ・グループの友達と協力しながら当番活動をする姿を見守り、工夫している点を認め、「ありがとう」「助かる」など感謝の気持ちを伝え意欲を高めるとともに自信につながるようにする。  ○今日の活動を振り返る。 ・みんなの前で今日の遊びで楽しかったことや、次にどのようにしていきたいかを自分の言葉で伝える楽しさを共有できるように時間を確保する。 ○明日の活動について知る。 ・明日の活動内容を具体的に伝え、友達同士でも言葉のやりとりをしながら、今日から明日への遊びや活動の連続性がもてるように話をする。 ・「明日も遊ぼう!」と思う気持ちを大切に、遊びが継続できるような環境を工夫する。 1号2号がどんなことをしたか担任同士伝え合い次の日の朝の集まりで子どもたちに伝え、遊びのつながりを大切にしたい! 13:00 頃 ○午睡をする。(2号児) 思いに添って遊ぶ。(1号児)

(5) 3歳児の保育の工夫 <行事の持ち方について>

1 学期終わりの子どもの姿 (運動会につながる育ちについて)

★ 2歳児 ★

- ・ 保育者と触れ合いながら、安心して園生活を送っている。少しずつ友達への関心が広がり、簡単な言葉のやり取りをしながら遊ぶようになる。
- ・ 回数を重ねるごとに、水遊びを全身で楽しむ姿が見られる。

★ 3歳児 ★

- <全体>・それぞれの生活の流れの違いにも慣れ、簡単な集団遊びを楽しむなど、『同じクラス』という意識が芽生えつつある。
- <1号児>・保育者との信頼関係を基盤に、自分の好きな遊びを楽しみ、同じ遊びをとおして、周りの友達への親しみが高まってくる。
- <2号児>・午後からの生活の中で、降園した1号児の名前が聞かれたり、思いを寄せたりする姿が見られる。
- ・ のびのびと園生活を送り、水遊びやプール遊びなど、昨年の経験を思い出しながら楽しみ、1号児へのよい刺激となる姿が見られる。

上記の姿を踏まえて、2つの視点から運動会の持ち方について見てみましょう。

経験のつながりを意識して(2歳児から3歳児へ)

平成 30 年度 2 歳児	令和元年度 3 歳児
1 クラス 23 名 保育者 4 名	15 名・16 名の 2 クラス 計 31 名 保育者各 2 名 計 4 名 内訳 1 号児 4 名 2 号新入児 7 名 2 号継続児 20 名
運動会のねらい	
○保育者や友達、保護者と一緒に身近な虫になったり、体を動かしたりすることを喜び、運動会に参加することを楽しむ。	○保育者や友達と一緒に表現したり、のびのびと体を動かしたりすることを楽しむ。
活動内容	
★テントウムシ・ハチになって ＜保育者と一緒に＞ ＜親子で一緒に＞ ●運動遊び (鉄棒・一本橋・跳び石) ●表現 (踊り) ●STOP&GO ※プログラム出場後、降園する。	★ダンゴムシになって ＜保育者や友達と一緒に＞ ●かくれんぼ遊び (風・雷・カエル) ●表現 (踊り) 直線から円への隊形移動 ※このほかに親子競技 (ボール運び) のプログラムと閉会式に参加する。
各年齢での留意点	
・ 運動会のテーマ (自然) をもとに、身近に親しんだ生き物を取り入れた。 ・ 内容については、一人一人が楽しみながら年齢や個々に応じて基本的な運動能力の伸長を促したり、親子の触れ合いを楽しんだりする経験となることを意識した。 ・ 8 月も毎日登園するため、長期の見通しをもって少しずつ活動を進めていくようにする。	・ 1 学期に親しんできたダンゴムシに変身し、クラスで楽しんでいた『かくれんぼ』を内容に取り入れた。 ・ 内容については、全員が経験していること、友達や保育者と一緒に一つの活動に取り組む経験となるようことを意識した。 ・ 継続児が多いため、クラス内での経験の差はそれほど気にしなくてもよかった。 ・ 9 月からの生活を保育者がしっかりと見通しをもつことが大切である。

子どもの育ちとこれまでの経験を重ねて



2 歳児は個を大切に、3 歳児は集団を意識する経験が積み重ねるようにした。こども園の 1 号児は夏季休業があるので配慮が必要だが、その年の状況によって柔軟な対応が求められる。(7・8 月の保育については、次頁参照)

経験の~~違い~~に配慮して(2歳児と3歳児)

令和元年度 2歳児	令和元年度 3歳児
2クラス 24名 保育者 4名	2クラス 57名 保育者 5名 内訳 1号児 21名 2号新入児 5名 継続児 31名
運動会のねらい	
○保護者と一緒に楽しんで体を動かしたり触れ合ったりして、運動会の雰囲気を楽しむ。	○友達や保育者と一緒に体を動かしたり表現したりする楽しさを感じる。 ○異年齢の友達の体を動かしたり表現したりする姿を見て、興味や憧れの気持ちをもつ。
活動内容	
★海の探検隊になって <親子で一緒に> ※ プログラム出場後、 自由参観、降園する。	★ウサギになってお散歩→表現遊び <保育者や友達と一緒に> ・親子競技 ・異年齢でのフィナーレ ・閉会式
各年齢での留意点	
・親子で一緒に入場する。【安心感】 ・一人一人のペースに合わせて、親子で触れ合う楽しさを感じられるようにする。 【親子での触れ合いが中心】	・子どもたちが無理なく参加できるように、 保育者や友達と一緒に 、保育で経験した遊び(両足跳びやおおまかなイメージを共有してなりきる)を題材に取り入れる【生活や遊びの連続性】 ・一人一人の表現する姿をあたたく受け止め、同じものを持ち、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを繰り返し感じられるようにする。 【思いの表出・共有感】

2歳児と3歳児が 運動会で経験すること(ねらい)について



・3歳児学級の中に継続児と新入園児がいるので、2歳児の育ちに近い3歳児もいる。行事の際には職員間で協議を重ね、ねらいを明確にした。
 →2歳児は保護者と一緒に、3歳児は先生や友達と一緒に安心して参加できるもち方にした。

夏季休業がある1号児 保育が継続する2号児

～7月下旬～8月の保育のポイント～ **こども園ならでは!!**

- ・2号児は1学期の遊びの続きをしている。
- ・運動会に向けての遊びを、日々の保育に自然に取り入れられる。子どもの興味、関心を探る機会でもある。
- ・9月から2号児の遊びの様子を見て1号児も遊びのイメージがもちやすく、楽しそうな様子からやってみたい気持ちにつながる。



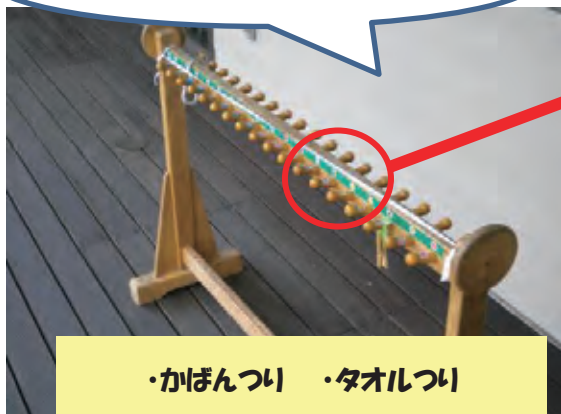
(6) 3歳児学級 4・5月の取り組み



こども園における3歳児クラスは、2歳児クラスから進級する継続児と1号児・2号児で入園する新入園児が生活することとなり、年度当初の配慮が必要！

タイトル	新入園児と継続児が安心して過ごすために (3歳児 2クラス 4月)
保育者の意図	3歳児クラスは、入園して初めて集団生活を送る1号児と保育所等からの転入園児、2歳までに集団生活を経験している2号児が同じクラス(混合クラス)になる。生活経験の違いがある子どもたちが同じクラスで過ごすためには、様々な配慮が必要になるが、園児一人一人が少しずつ園の環境や生活リズムに慣れるように、安心・安定することを最優先に環境を整えていった。1号児は、無理なく園生活に慣れるために、保育時間を段階的に長くしていく。降園時間が11時30分の時は、2号児の給食準備の時間と重なる。そのため、1・2号児で保育室を分ける等、安心して生活できるように配慮した。
ねらい	(新入園児) 保育者に親しみ、身の回りのことを一緒にしながら安心して過ごすようになる。 (継続児) 新しい保育者や友達に親しみをもち、新しい保育室や生活の流れに慣れ安心して過ごす。

ポイント① 環境面の工夫



・かばんつり ・タオルつり
・帽子入れ ・机 など



くまチーム・ぱんだチームで部屋が移動しても自分のマークは同じだよ！

1組の1号児のマークを2組の2号児が、1組の2号児のマークを2組の1号児が使うことで、部屋が変わっても自分の場所が決まっています **安心!!**
(1号児と2号児の人数の差があるときは、マークが重ならないようにしている)

子どもたちも職員も、誰がどちらのチームか一目で分かるように名札に丸シールを貼る。担任だけではなく全ての職員が丸シールの色で、どちらのチームか分かる。



※職員が名札の丸シールの色を見て、どちらのチームかを繰り返し伝えることで、子どもは自分のチームを理解し、安心して過ごすようになった。



入れ物
・出席ノート
・おたよりばさみ
・絵本バック
・歯ブラシの袋
など

生活の中で、自分のチームを覚えるよ

出席ノート入れやおたよりばさみ入れを1号児・2号児に色分けしています。最初は、戸惑っていた子も、自然に自分のチームとカラーを覚えられて **安心!!**

ポイント② 職員間連携の工夫

【2・3号児の慣らし保育について】

新入園児			年齢	生年月日	1	2	3	4	5	8	9	10	11	12	15	16	17	18	19	22	23	24
1	たかまつ たろう	4	HO.O.O								※	※	※	※	※	※	☆	☆	☆	☆	☆	○
2	かがわ はなこ	3	HO.O.O	※	☆	☆	○	○	○			○	○	○								○
3	りつりん じろう	3	HO.O.O		※	※	※	※	☆			○	○	○								○
4	たまも たかこ	3	HO.O.O	※	※	☆	☆	○	○			○	○	○								○
5	やしま さぶろう	1	HO.O.O	※	※	☆	☆	○	○		○	○	○	○								○
6	しおのえ ゆうこ	1	HO.O.O									※	※	※	※	※	☆	☆	☆	☆	☆	○

※・・・11時前降園（おやつのみ） ☆・・・12時前降園（給食後） ○・・・午睡後降園
欄外には、アレルギーなどの特記事項も記入しています

3歳児の4月は、1号児の新入園児と2号児の新入園児、継続児の3パターンに生活時間帯が分かれます。2号児の新入園児は慣らし保育で、降園時間が異なるので表を作っている。全職員が2・3号児の新入園児を把握しやすくなって安心!!

また、2号児の新入園児は、11時までの降園の間はクラスの枠を超えて朝のおやつ担当を決め確実に提供できるようにしています。1号児の新入園児は給食が始まるまで、おやつタイムがあるので、1号児と2号児に分かれた後におやつを食べる。担任も分かれて配置するので安心!!

【早出・居残りチェック表】

令和元年度 名簿（居残り）			表	令和元年度 名簿（早出）※			裏
3歳児（もも）	月 日（ ）【 1		短時間児は太字	3歳児（もも）	月 日（ ）【 1		
1	はら たろう			1	たかまつ たろう	7:30	
2	かがわ はなこ	16:30	2号児は、送迎の時間が個々に異なる。	2	かがわ はなこ		
3	りつりん じろう	17:00	保護者との連携が取れるように必要保育時間順に伝達表を作っている。	3	りつりん じろう		
4	しおのえ ゆうこ	17:30	居残りで使って、裏返して次の日の早出に使用している。	4	たまも たかこ	7:55	
5	やしま さぶろう			5	やしま さぶろう	8:00	
6	たまも たかこ	18:00		6	しおのえ ゆうこ		
7	むれ はなこ			7	むれ はなこ	8:20	
8	りつりん じろう ●	18:30	●は特定の人以外の引き渡しNG	8	はら たろう	8:30	1号児の出欠確認用
9				9			
10				10			
				・あやせ・ぬいこ・かずや・あいこ・ゆり・えみ・ゆう			

1号児の新入園児は、初めての環境での生活。継続児についても、同じクラスに1号児がいることで違う降園時間の子どもがいることなど2歳児の時と比べて生活の変化も大きい。そのため、子どもたちにとって安心・安定につながるような環境構成の工夫や保育者の関わりに配慮が必要になる。特に4月は慣らし保育の期間も様々なパターンがあるので、子どもたちの姿や生活の流れについて保育者間で十分に共通理解していくことが大切である。

高松市独自の取組

高松市では、子どもの成長を願って
様々な取組を進めています。

スマイルあいさつ運動



おうちの人や『おはにゃん』と
一緒にあいさつ、楽しい！

食育活動

大切に育てた野菜を
収穫して、クッキング

マイ・ランチの日



自分で作ったお弁当（小・中学校）



芸術士派遣事業

体に色を塗っ
て、大きなキャ
ンパスに、ペタ
ペタごろごろ、
たのしい～



巨大風船、みんなで作ったよ





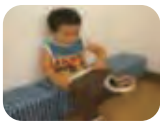
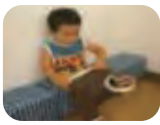
いきいきカリキュラム視点【た】の具体例

たのしく元気に遊ぶ（学ぶ）子ども＜生活に必要な生活習慣＞

○ねらい（就学前）

○目標（１年生）

●発達の中で大切にしたい視点

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児（～12月）	接続期前期（5歳児 1月～3月）	接続期後期（1年生 4月～7月）	1年生（8月～）	
ねらい	○保育者の愛情豊かな受容のもとで生理的・心理的欲求を満たし、心地よさを感じる。	○自分でしようとする気持ちをもつ。	○自分でしようとする気持ちを受け止めてもらいながら、自分でできたという満足感を味わう。	○身の回りのことを自分でしようとする。	○1日の生活の流れが分かり、必要なことを自分でしようとする。	○生活の仕方を身に付け、自分の身の回りのことを進んで行い、見通しをもって生活を進めていこうとする。	○就学への期待をもって、自分たちで生活を進めていこうとする。	○新しい環境の中での基本的な生活習慣を身に付ける。	○規則正しい生活習慣や望ましい学習態度を身に付けて安全に学校生活を送ろうとする。	
基本的な生活習慣（基本的生活習慣・生活リズム・食育）	食 事 ●保育者に抱っこしてもらいせながらミルクを飲み、心地よさを感じる。  授乳	●ゆったりとした雰囲気の中で、離乳食を食べ、いろいろな味や食感を知る。  離乳食	●楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。  幼児食	●しっかり噛んで食べる。 ●保育者や友達と一緒に楽しく食べる。 ●箸に興味をもつ。 ●箸を使って食事をする。 	●友達と楽しく食事をする。 ●苦手なものでも自分で少しずつ食べる。 ●栽培活動などを通して食べ物に興味関心をもつ。 	●食事に必要なマナー、食事の仕方が身に付き自分なりに意識して食事をする。 ●食べ物と体の関係に関心をもって食事をする。 ●食事を作ってくださった人に感謝の気持ちをもって食事をする。 ●必要に応じて、水分補給をする。 	●配膳の手順や食事のきまりを守り、楽しく食べる。 	●栄養や地域の食材について知り、感謝して食べる。 	●給食に携わっている人に感謝する。	
	排 泄 ●オムツ交換を通じて、きれいになった心地よさを感じる。  オムツ交換	●タイミングが合えば、オマルで排泄できるようになる。  オマルや便器での排泄	●自分から尿意を知らせたり、保育者に誘われたりして、トイレで排泄しようとする。  トイレ	●トイレで排泄する心地よさを感じ、自分でトイレに行く。 ●トイレットペーパーの使い方を知り、できないところは手伝ってもらいながら、後始末をしようとする。 ●自分で布団に入り、安心して眠る。	●決まった時間に排泄することの必要性を知りトイレに行く。 ●排泄の後始末がほぼできる。 ●排便の、リズムを整える。 ●早寝、早起きの大切さを知り、規則正しい生活をしようとする。	●見通しをもち、状況判断して自分からトイレに行く。 ●気持ちよくトイレを使う方法を考えながら、トイレを使用する。 ●朝、家で排便し、体のリズムを整える。	●休み時間にトイレに行く。 ●登校する時刻に合わせて起きる。	●寝る時刻や起きる時刻を決め、自分で起きようとする。		
	睡 眠 ●一人一人の生活リズムを大切にしながら、眠いときは安心して十分に眠る。	●保育者が側にいたり、見守りがあると、安心して眠り、適切な休息をとる。 	●落ち着いた雰囲気の中で、必要時間十分に眠る。 	●手洗いや鼻かみ等、仕方を知り自分でしようとする。 	●手洗い、うがい等の必要性を知り、丁寧に行う。 ●身の回りの清潔に気付く。 季節に応じた清潔（汗を拭く等）を知り、やってみようとする。	●自分の健康に関心をもち、進んで病気の予防をしようとする。 ●衣服の汚れに気付、自分から着替えるなど、身の回りを清潔にしようとする。	●自分の健康に関心をもち、進んで病気の予防をしようとする。 ●衣服の汚れに気付、自分から着替えるなど、身の回りを清潔にしようとする。	●ハンカチ・ティッシュを携帯し、必要に応じて使う。	●着脱の仕方や衣服のたたみ方、片付けの場所が分かり、時間内に着替えや片付けができる。 	
	清 潔 ●体、衣服、身の回りにあるものを常に清潔な状態にもらい気持ちよく過ごす。	●食事の前後や汚れたときは、手や顔を保育者に拭いてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 	●顔を拭く、手を洗う、鼻を拭くなど保育者に手伝ってもらいながら、少しずつ自分でする。 	●保育者に手伝ってもらいながら着脱や調節、片付けをしようとする。 	●ボタン、ファスナーなどを扱い、裏表、前後左右がわかり、一人で着脱する。 	●手際よく着脱するようになり、片付けるスペースを考えながら、衣服をたたむ。 ●気温や体調に合わせて衣服の調節を自分でする。	●手際よく着脱するようになり、片付けるスペースを考えながら、衣服をたたむ。 ●気温や体調に合わせて衣服の調節を自分でする。	●家庭において、保護者と共に通学路や子どもSOSの場所を確認する。	●信号機、道路標識などの意味が分かり、交通ルールを守って通学する。 ●安全を守る人に関心をもち、安全な遊びや遊び場所、人との接し方を身に付ける。	
	着 脱 衣 ●室内外の温度、湿度に留意し、一人一人の健康状態に合わせて衣服の調節をしようとする。	●保育者に手伝ってもらいながら、衣服の着脱に興味をもち、自分でやってみようとする。 	●簡単な衣服は、一人で脱ぐようになり、手伝ってもらいながら、一人で着る。 	●お散歩の際に、保育者と一緒に安全に気をつけたり、地域の方に挨拶をしたりする。 	●所・園外保育の際に、自分で左右の確認をするなど、交通ルールを意識的に守ろうとする。	●片付けの必要性を自分なりに感じながら、進んでしようとする。 ●雑巾やほうきの使い方を知る。 ●共有の場を友達と力を合わせて片付ける。 ●生活に必要なことを役割分担してグループの友達と一緒に進めていこうとする。	●片付けの必要性を自分なりに感じながら、進んでしようとする。 ●雑巾やほうきの使い方を知る。 ●共有の場を友達と力を合わせて片付ける。 ●生活に必要なことを役割分担してグループの友達と一緒に進めていこうとする。	●ランドセルや学用品の片付けの仕方が分かり、自分で片付ける。 ●場所に応じた掃除の仕方を知り、役割分担して、掃除をする。	●始業の時刻を守り、席に座る。 机の上に学習道具を準備する。	
	そ の 他 ●生理的欲求が十分に満たされ、保育者に愛情豊かに受容される心地よさを味わうことにより、意欲が芽生え、探索活動をしようとする。 	●保育者がしていることに興味をもち手伝おうとする。 	●生活リズムが整い保育者と安心して一日を過ごす。	●保育者と共に片付けを楽しむ中で、きれいになる心地よさを感じ、自分で片付けしようとする。	●大まかな1日の流れがわかり、次の活動に期待をもつ。	●生活に必要なことを役割分担してグループの友達と一緒に進めていこうとする。 	●生活に必要なことを役割分担してグループの友達と一緒に進めていこうとする。 	●見通しをもって自分たちで生活を進めていこうとしたり、周りの状況や時間を意識しながら、行動したりしようとする。		
	●経験の積み重ねによって苦手なことや少し困難なことにも自分でやってみようとする気持ちが育ち、自分でできたことに満足感を味わったり、自尊感情が育ったりする。 ●保護者と連携を取り、家庭での生活リズムを考慮しながら、生活リズムをつくる。									
	どの年齢においても、大切なことだね。 「高松っ子いきいきプラン」活用方法より									



どの年齢においても、大切なことだね。

「高松っ子いきいきプラン」活用方法より



いきいきカリキュラム視点【つ】の具体例

つよい心と体で遊ぶ（学ぶ）子どもくしなやかで健康な体づくり>

○ねらい（就学前）

○目標（1年生）

●発達の中で大切にしたい視点

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児（～1 2 月）	接続期前期（5 歳児 1 月～3 月）	接続期後期（1 年生 4 月～7 月）	1 年生(8 月～)
ねらい	○伸び伸びと身体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。	○自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。	○生活や遊びの中で、自分から体を動かすことを楽しむ。	○体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。	○喜んで運動遊びをしたり、友達と一緒に遊んだりする楽しさを味わう。	○体を十分に動かす楽しさを味わいながら、自分なりの目的に向かって取り組み、やり遂げようとする。	○ルールのある遊びや集団遊びを通して、体を思い切り動かし、遊ぶ楽しさを味わう。	○進んで運動遊びの楽しさに触れ、きまりを守って誰とでも仲良く運動することを通して、意欲的に運動する態度を養う。	○各種の運動遊びに進んで取り組み、その行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝えながら意欲的に運動する態度を養う。
粗大運動	 ●動くものを目で追う。	 触れ合い遊び はいはい 高ばいをする。	 ●高い所から跳ぶ	 ●体の動きを模倣する。	(～しながら～するということが可能になる。)		(運動機能が一段と発達し、体をさまざまにコントロールすることができ始める。)		(重心の置き方や力の入れ方のコツがわかり体のバランスをとり方が向上する。)
	 ●おすわりが安定する	 つかまり立ち 伝い歩き (姿勢を保つ背筋力の発達)	 両足跳び (おおまかな運動の基礎ができる。)	 片足立ち	 片足けんけん	 スキップ			
			 階段の昇り降り	 ●身体のパランスをとる。	 三輪車 (躍動の芽生え)	 ボールを投げる キャッチする・蹴る			
			 (平行感覚の発達)	 (斜めの姿勢の確保。)		 ●自分なりの目標を持ち 挑戦しようとする。		 水の中を走る 潜る 浮く等	 ●さまざまな遊具・道具・施設の適切な使い方を知り、意欲的に取り組む。
		 (空間認知の発達。)	 渡る 跳ぶ 乗り越える 跳び越える 登る 降りる 滑るなど	 パカポコ	 フラフープ	 短縄跳び	 跳び箱	 逆上がり	
		 ぶらさがる	 おさるのかごや	 足かけ回り	 前回り				
微細運動	 入れたり出したり		 ひっぱる		 めくる (手の屈伸、回転、交錯)		 アイロンビーズ		 マフラー作り 指編み あやとり ぬいさし
				 折り紙 (手先と目の制御)					(巧緻性も増し、複雑な動きが可能になる。)
									●頭の中でイメージし、三次元の制作を行う。 構成遊び・制作
									所長・園長・副園長研修会作成資料より

所長・園長・副園長研修会作成資料より

おわりに

高松っ子いきいきプランを最後までお読みいただき、ありがとうございました。今回の改訂にあたり、5回の会議を重ねて議論を深めてまいりました。しかし、骨子を作成した事務局の会議は実に24回を重ねたそうです。高松の教育・保育を良くしていきたいという熱意を感じます。

「遊びまくり、遊びつくす」ことを中心に据えた本プランは、遊びを通した子どもの学びを何より大切にしています。そのためには、先生方が子どもと同じぐらい遊びを楽しみ、教育・保育に手ごたえを感じ、施設や学校に行きたくなくなるような環境を自ら創っていくことが望まれます。

本プランでは、その一助となるよう、リフレクションシートを準備しました。これは、単に保育（授業）の良し悪しを判断するようなチェックリストではなく、日々当たり前になっていることが、目の前の子どもたちのためになっているのかどうかを振り返っていただくためのものです。施設・校内の研修などで話し合いのきっかけとして活用していただくことで、高松市の教育・保育がそういった環境に少しでも近づくことを願っています。

令和2年3月

高松っ子いきいきプラン検討協議会 委員長
松井 剛太



本プランは活用することで意味をなすものです。
いつ、どこで、どのように活用するか……。
戸棚で眠ることのないことを願っています。

委員 一同

高松っ子いきいきプラン検討協議会 委員一覧

名 前	所 属	備 考
松井 剛太	香川大学准教授	委員長
武市 さゆり	高松市立香西保育所長	
橘 静香	高松市立大野幼稚園長	
池田 理恵	高松市立牟礼南小学校長	
泉川 葉子	高松市立松島保育所保育教育士	
酒巻 知代	高松市立多肥保育所保育教育士	
佐々木 まりこ	高松市香南こども園保育教育士	
佐藤 美貴	高松市立三溪幼稚園保育教育士	
安富 慶幸	高松市立円座幼稚園保育教育士	
末包 修史	高松市立木太幼稚園保育教育士	
生島 美紗子	高松市立仏生山小学校教諭	
土井 あずさ	高松市立檀紙小学校教諭	

(敬称略)

事務局

名 前	所 属
中谷 厚之	高松市健康福祉局こども未来部長・こども園運営課長事務取扱
真鍋 紀美子	高松市健康福祉局こども園運営課主幹・学校教育課指導主事
南 真由美	高松市健康福祉局こども園運営課主幹
今池 健一	高松市健康福祉局こども園運営課主幹
藤井 美紀	高松市健康福祉局こども園運営課長補佐・学校教育課指導主事
石尾 育代	高松市健康福祉局こども園運営課長補佐
栗塚 英津子	高松市健康福祉局こども園運営課指導育成係長
松村 和美	高松市健康福祉局こども園運営課
徳弘 亜紀子	高松市健康福祉局こども園運営課
廣瀬 真澄	高松市健康福祉局こども園運営課・学校教育課指導主事
島野 有加	高松市健康福祉局こども園運営課・学校教育課指導主事
宮脇 智子	高松市健康福祉局こども園運営課
川上 敬吾	高松市教育委員会学校教育課長
宮脇 充広	高松市教育委員会学校教育課長補佐
住田 恵津子	高松市教育委員会学校教育課指導主事

(職名は令和2年3月現在)

表紙絵：佐々木 啓祐

挿絵：川原 一乃

あそびまっクリーズ絵：安富 慶幸